

令和3年度

統計データからみる

高梁市の姿



秘書企画課

令和3年度 統計データからみる高梁市の姿

目次

A 自然環境

1. 位置	1
2. 沿革	2
3. 平均気温・降水量	3
4. 土地の地目別面積	4

B 人口・世帯

1. 総人口	5
2. 人口ピラミッド(年齢別人口)	6
3. 年齢3区分別人口	9
4. 外国人数	9
5. 夜間・昼間人口	10
6. 流入・流出人口	10
7. 人口動態	11
8. 転入・転出人口	11
9. 出生数・死亡数	12
10. 出生率・死亡率・ 合計特殊出生率	13
11. 婚姻数	14
12. 総世帯数	15
13. 世帯構成	15
14. 将来推計人口	16
15. 将来児童数	16

C 経済・産業

1. 産業別就業者数	17
2. 農業産出額	18
3. 農家数	19
4. 経営耕地面積	19
5. 事業所・従業者数	20
6. 事業所・従業者数(製造業)	21
7. 製造品出荷額等	22
8. 事業所(商店)・従業者数(商業)	23
9. 年間商品販売額	24
10. 誘致企業一覧	25
11. 観光客入込客数	26

D	労働		
	1. 就業率	27
	2. 女性就業率・役員比率	27
	3. 有効求人倍率	28
E	医療・福祉		
	1. 平均寿命	29
	2. 病院・一般診療所数	29
	3. 医師数	30
	4. 小児科従事医師数	30
	5. 産婦人科・ 産科従事医師数	31
	6. 看護職員数	31
	7. 一人当たりの 国民健康保険医療費	32
	8. 人口千人当たりの 被生活保護者数	32
	9. 三大主要死因死亡者	33
	10. 自殺死亡者	33
F	環境		
	1. ごみの排出量	34
	2. 一人一日当たりの ごみ排出量・リサイクル率	34
	3. 汚水処理人口普及率	35
	4. 道路実延長 <small>(市町村道)</small>	35
	5. 都市公園面積 <small>(市町村立)</small>	35
	6. 空き家率	36
G	防災・安全		
	1. 自主防災組織率	37
	2. 火災発生件数	37
	3. 救急自動車出動件数	37
	4. 交通事故・人身事故 発生件数、死亡者数	38
H	財政状況		
	1. 当初予算（一般会計）	39
	2. 令和3年度予算の内訳	39
	3. 普通建設事業費	41
	4. 普通交付税収入の見込額	41
	5. 職員数	42
I	その他		
	1. 観光情報	43

A 自然環境

1. 位置

高梁市は、岡山県の中西部に位置し、高梁川、有漢川及び成羽川とその支流に沿って帯状に曲折したわずかな低地部に平地があるものの、その他は急峻な傾斜部及び起伏が激しい高原部が大勢を占めている。北は新見市及び真庭市、東は吉備中央町、南は総社市及び井原市、西は広島県神石郡神石高原町と接している。総面積は約546.99km²で、県下市町村のうち真庭市、新見市、岡山市に次ぐ第4位の市域を有している。



県内市町村の面積

	市町村	面積(km ²)
1	真庭市	828.53
2	新見市	793.29
3	岡山市	789.95
4	高梁市	546.99
5	津山市	506.33
6	美作市	429.29
7	鏡野町	419.68
8	倉敷市	355.63
9	吉備中央町	268.78
10	備前市	258.14
11	井原市	243.54
12	美咲町	232.17
13	総社市	211.90
14	赤磐市	209.36
15	和気町	144.21
16	笠岡市	136.24
17	瀬戸内市	125.46
18	玉野市	103.58
19	矢掛町	90.62
20	久米南町	78.65
21	奈義町	69.52
22	新庄村	67.11
23	浅口市	66.46
24	西粟倉村	57.97
25	勝央町	54.05
26	里庄町	12.23
27	早島町	7.62

合計 7114.35

※児島湖(7.05km²)を含む。

位置：東経133度35分11秒4 総面積：546.99km²
 北緯 34度47分17秒0 東西35km 南北30km
 海拔62.93m

<資料出所他>
 ・資料出所：国土地理院
 「全国都道府県市区町村別面積調」

2. 沿革

鎌倉時代1240年（延応2年）、秋庭三郎重信が標高478mの臥牛山頂に砦を築いて以来、明治維新まで約630年にわたり城下町として栄え、今日の高梁の基礎がつくられた。

明治2年11月に松山を高梁に改め高梁藩と呼ばれ、さらに明治4年の廃藩置県によって岡山県に編入し、高梁町として発足した。続いて昭和4年5月、隣接の松山村と合併し、昭和29年5月1日に上房郡高梁町、津川村、川面村、巨瀬村、川上郡玉川村、宇治村、松原村、高倉村、落合村の1町8村が合併（昭和の大合併）し、高梁市が誕生した。その後、昭和30年2月には、上房郡中井村を編入し、さらに昭和45年5月に上房郡賀陽町佐与谷の一部を編入した。

平成16年10月には、高梁市、上房郡有漢町、川上郡成羽町、川上町、備中町の1市4町が合併（平成の大合併）し、現在の市域を形成している。

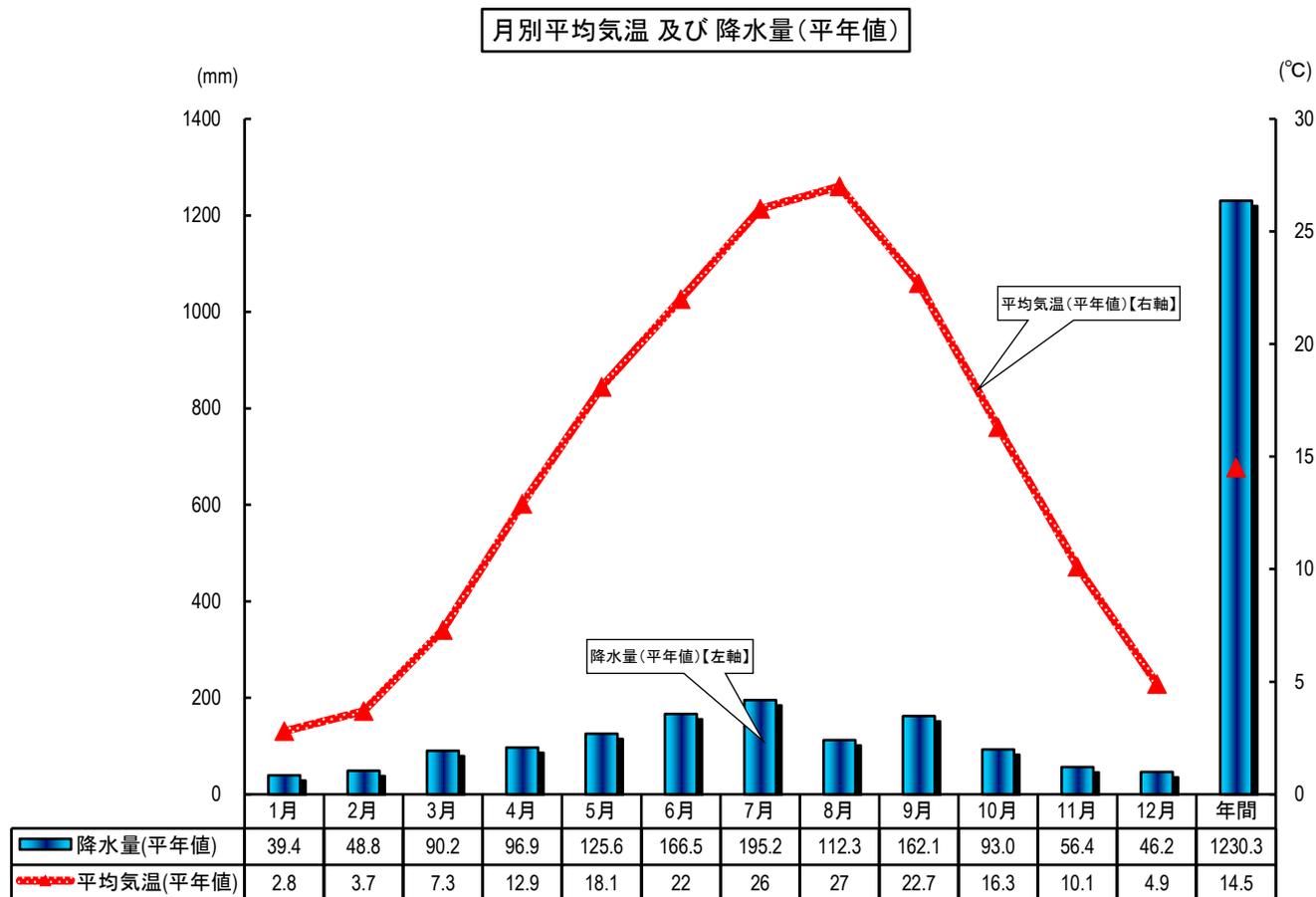
<合併等の経過>

市町名	施行年月日	合併形式	関係市町村
高梁市	昭29. 5. 1	合体	上房郡高梁町、津川村、川面村、巨瀬村 川上郡玉川村、宇治村、松原村、高倉村、落合村
	昭30. 2. 1	編入	上房郡中井町
	昭45. 5. 1	境界変更	上房郡賀陽町の一部
	平 4. 4. 1	境界変更	上房郡賀陽町の一部
	平16. 10. 1	合体	高梁市 上房郡有漢町 川上郡成羽町、川上町、備中町
上房郡有漢町	昭31. 4. 1	合体	上房郡有漢町、上有漢村
川上郡成羽町	昭30. 3. 1	合体	川上郡成羽町、中村
	昭30. 4. 1	編入	川上郡吹屋町
川上郡川上町	昭29. 4. 1	合体	川上郡手荘町、大賀村、高山村
	平元. 10. 1	境界変更	川上郡備中町の一部
川上郡備中町	昭31. 9. 30	合体	川上郡富家村、平川村、湯野村
	平元. 10. 1	境界変更	川上郡川上町の一部

3. 平均気温・降水量

本市の気候の特徴として、年間を通じて霧の発生が多く高原部の一部では積雪も見られる。

また、高原部では昼夜の温度差が大きいものの、低地部は比較的温和な気候に恵まれ、年間平均気温は14℃前後で、降水量は年間平均1,200mm～1,500mm程度となっている。

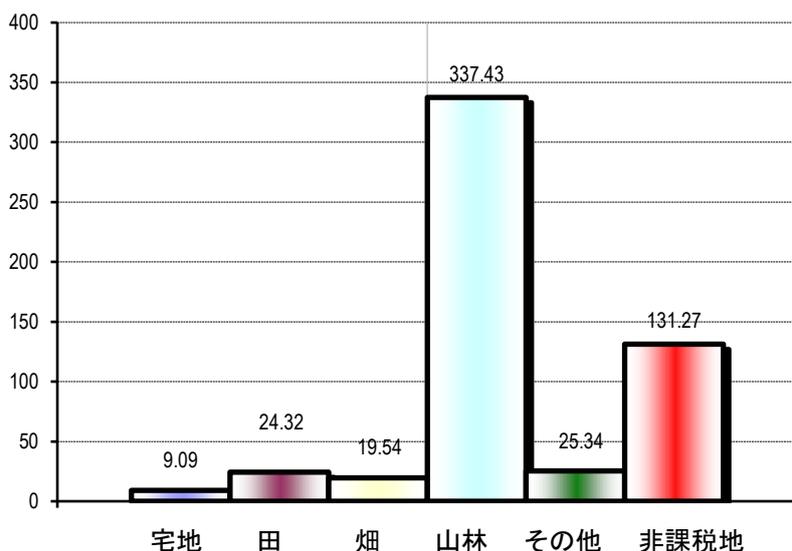


<資料出所他>
 ・資料出所：気象庁HP
 ・平年値とは、西暦年の1位が1の年から数えて連続する30年間の平均値のことで、現在の平年値は、1991年から2020年の平年値

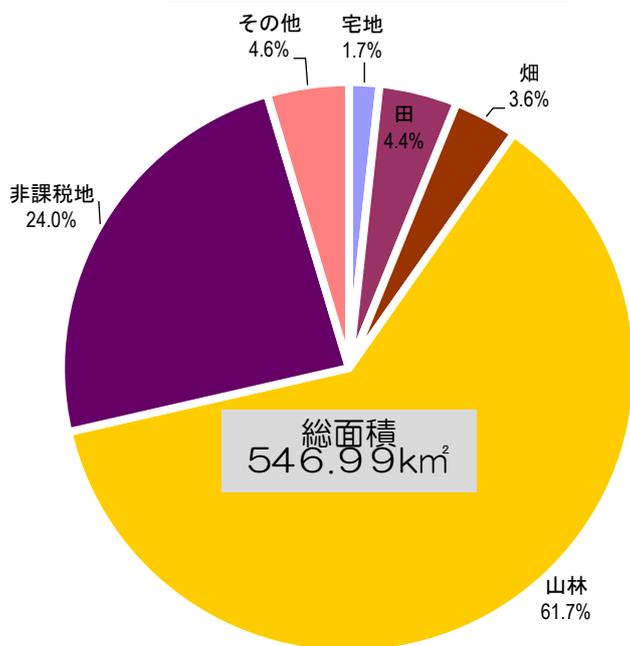
4. 土地の地目別面積

本市の地目別面積は、山林が全体の60%程度で過半数を占めており、宅地は1.7%となっている。このことから、総面積は県下で4番目であるが、本市の居住可能面積が非常に小さいことがうかがえる。

土地の地目別面積(令和3年度)



土地の地目別構成比(令和3年度)

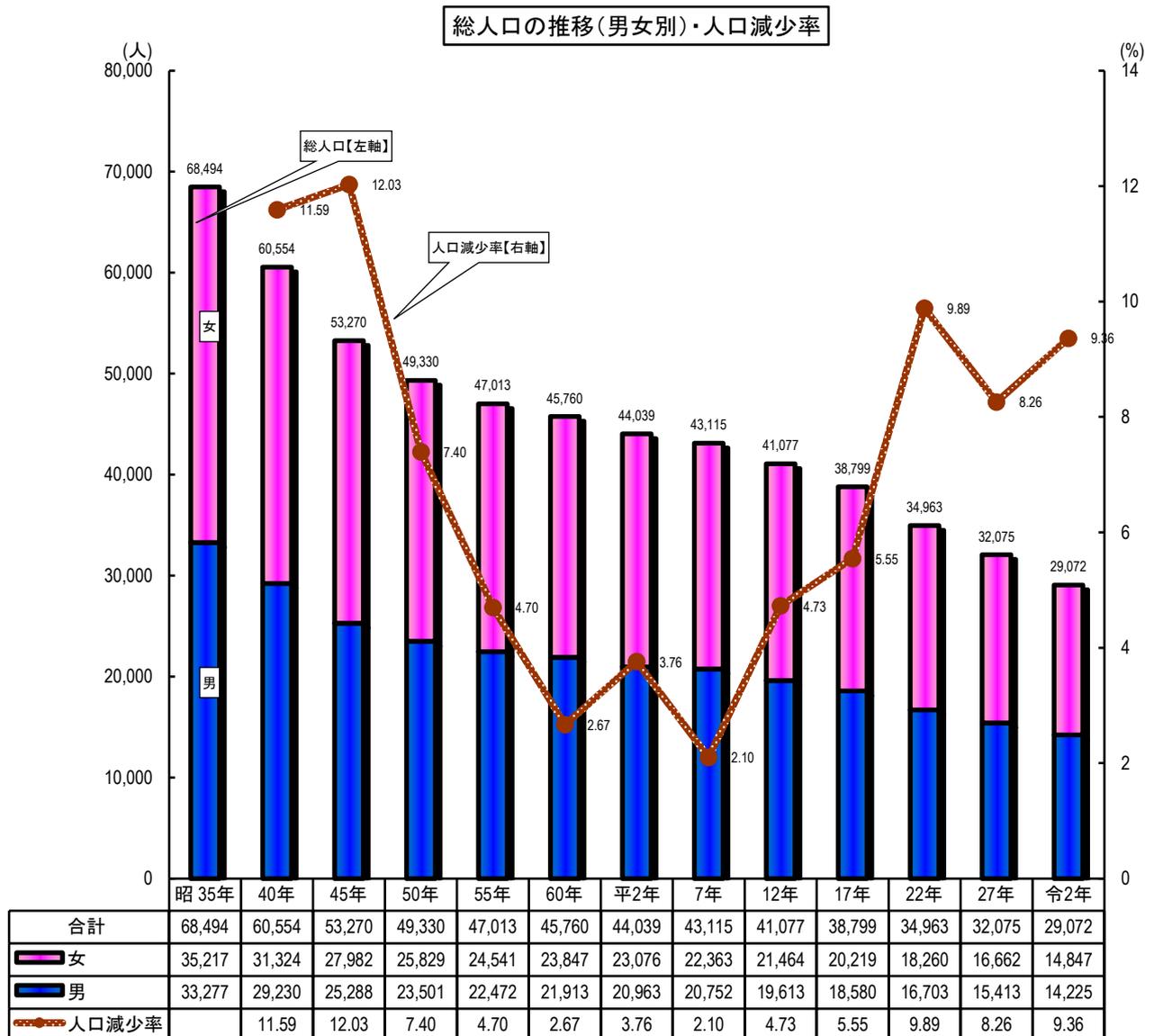


<資料出所他>
 ・資料出所：総務部税務課
 「令和3年度市税概要」

B 人口・世帯

1. 総人口

市の人口は、昭和25年の75,824人をピークに減少を続けており、令和2年には29,072人となった。人口の減少は全国的な傾向であるが、本市は平成27年から令和2年の5年間に於ける人口減少数が3,003人、人口減少率が約9.4%となり、県内市のなかで減少率が最も高かった。男女の数は、女性が男性より多いものの徐々に差はなくなっている。

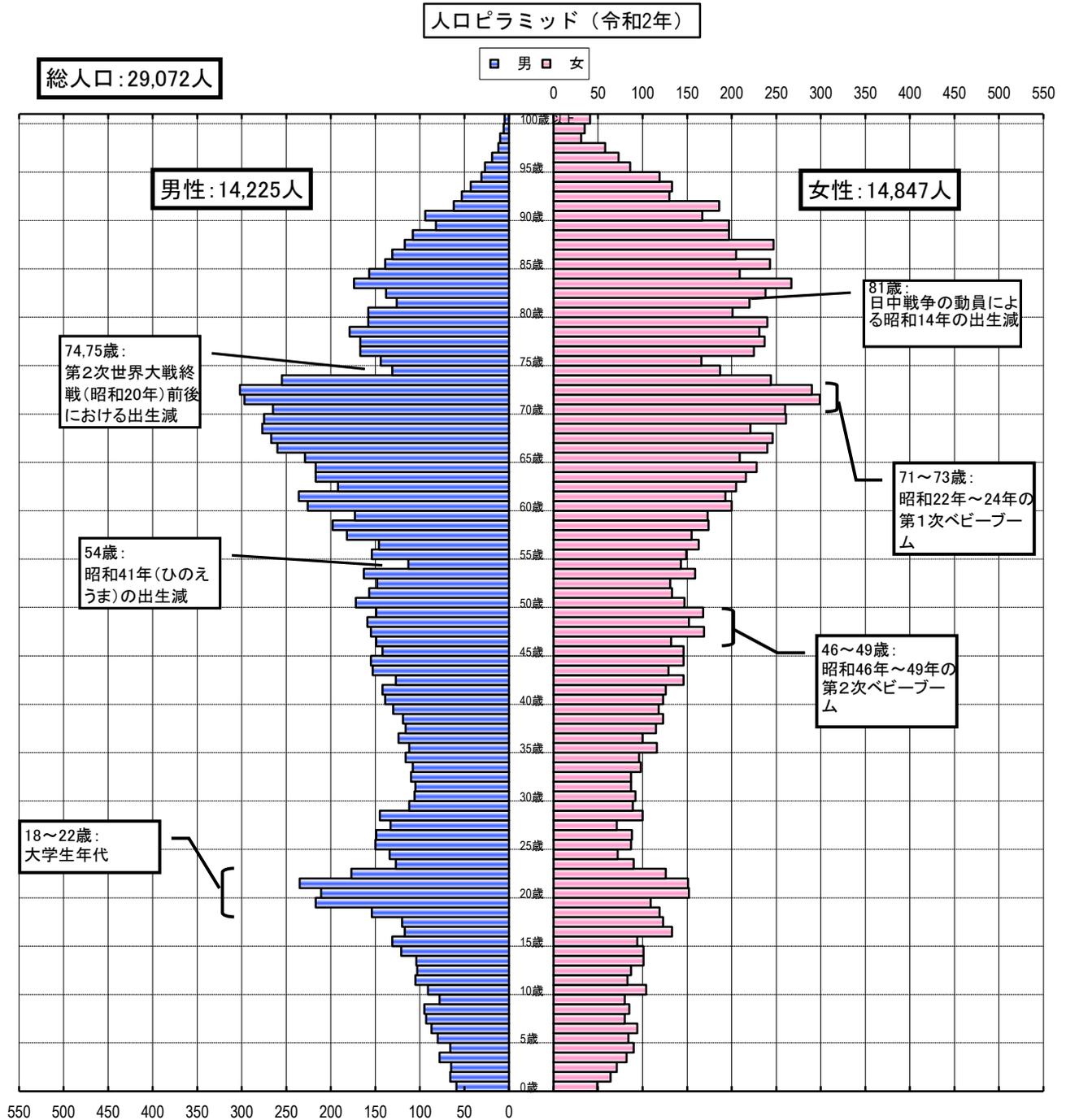


<資料出所他>
・資料出所：総務省「国勢調査」

2. 人口ピラミッド(年齢別人口)

年齢別人口を見ると、平成27年に比べて令和2年は人口の多い年齢が上方に移動しており、一層高齢化が進展していることがわかる。

本市の特徴としては、大学、専門学校等が存在するため18歳から22歳の人口割合が多くなっていることであるが、その数は減少傾向にある。このことが総人口の大幅な減少に繋がっている。また、第2次ベビーブームの昭和46～49年生まれの人口割合も全国と比べて少なく、いわゆる団塊ジュニアが市外へ転居していることがうかがえる。

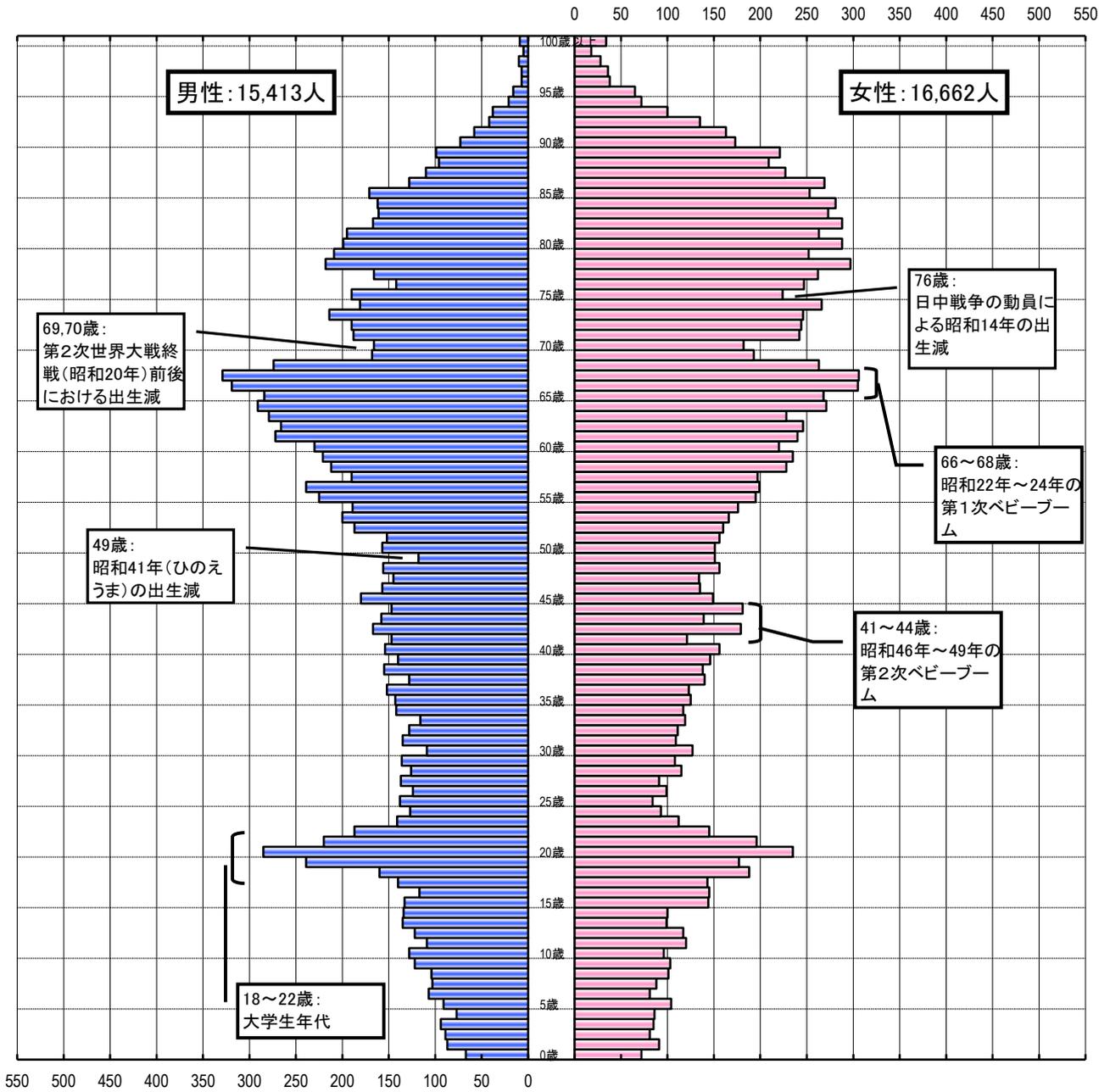


<資料出所他>
・資料出所: 総務省「国勢調査」

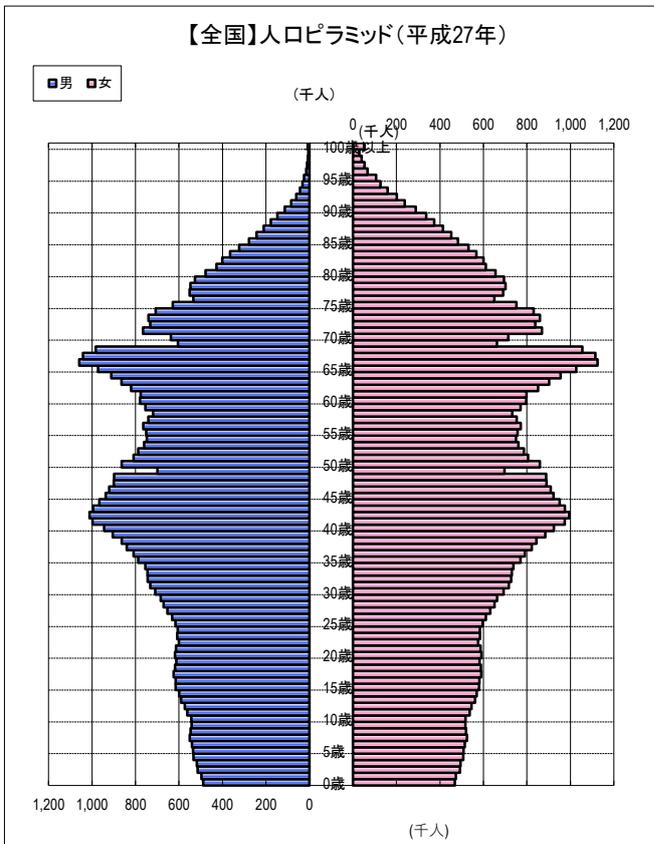
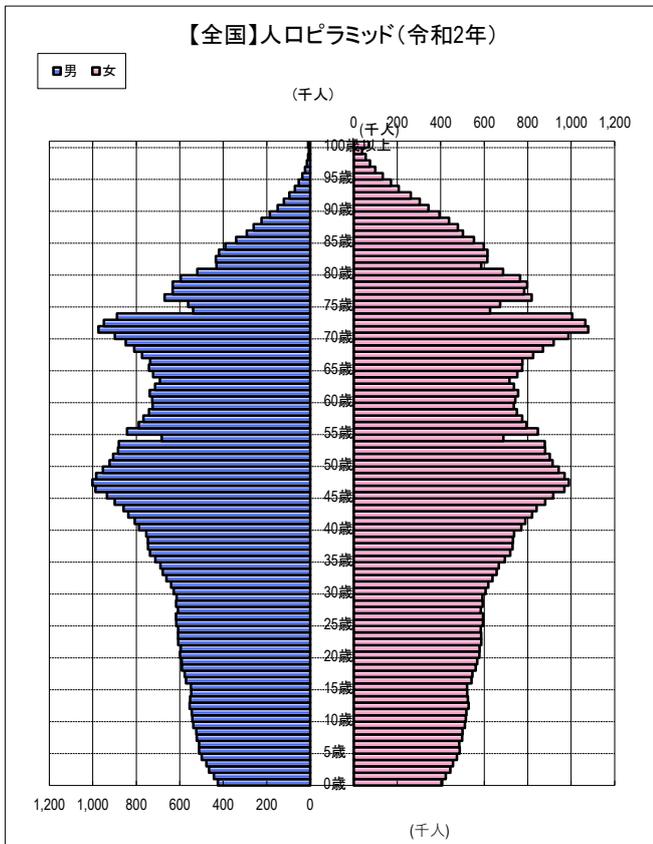
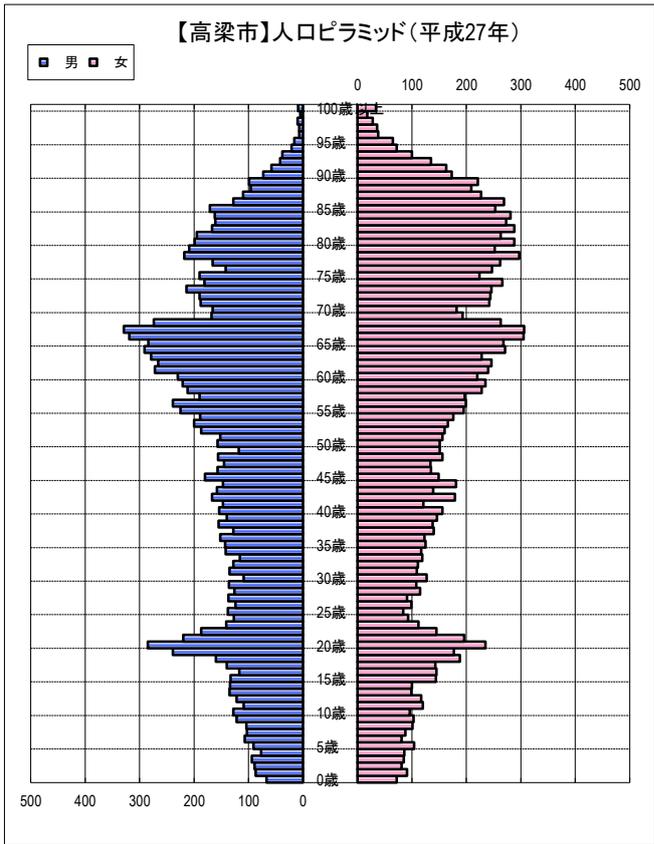
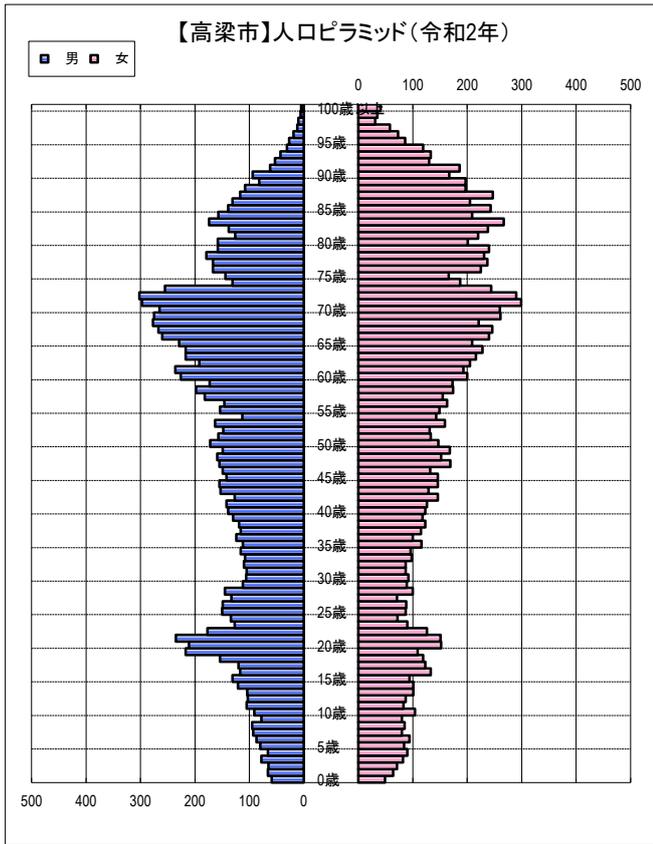
人口ピラミッド(平成27年)

総人口: 32,075人

■ 男 ■ 女

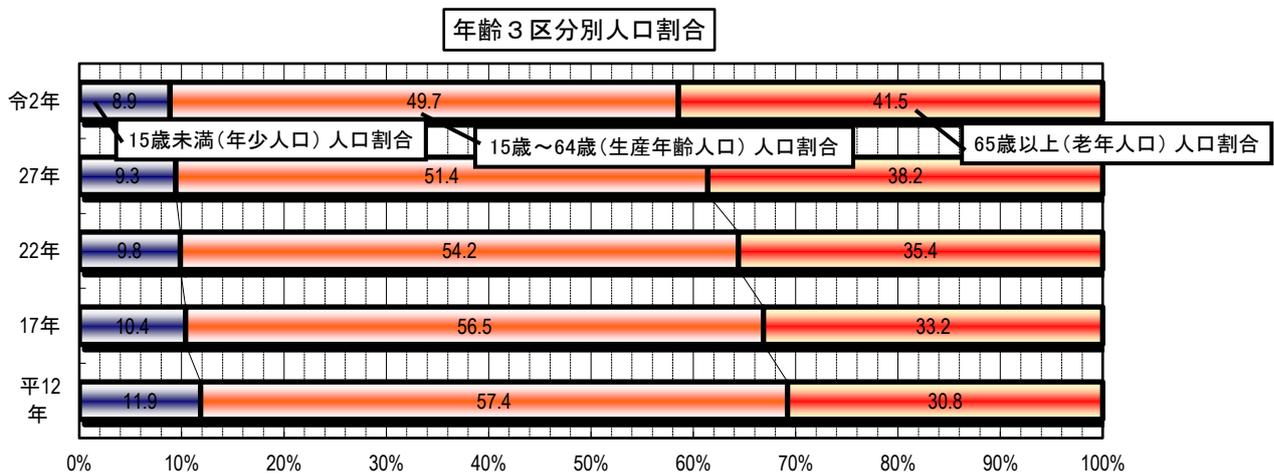
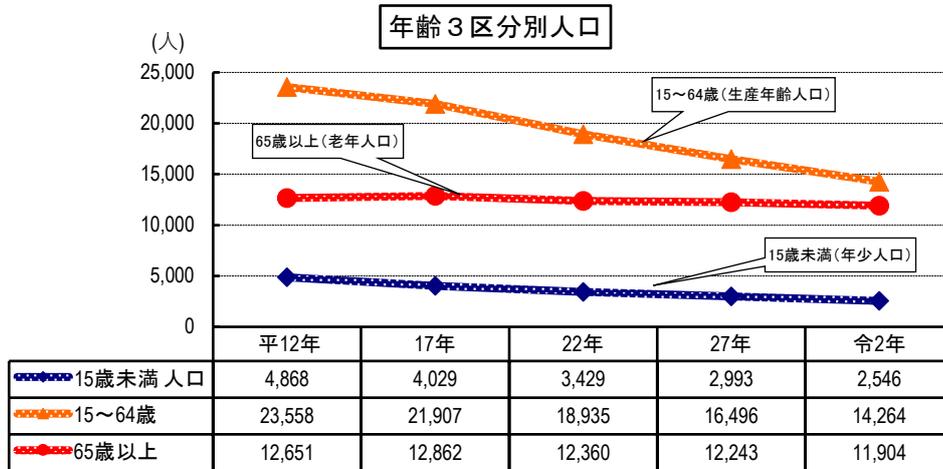


<資料出所他>
・資料出所: 総務省「国勢調査」



3. 年齢3区分別人口

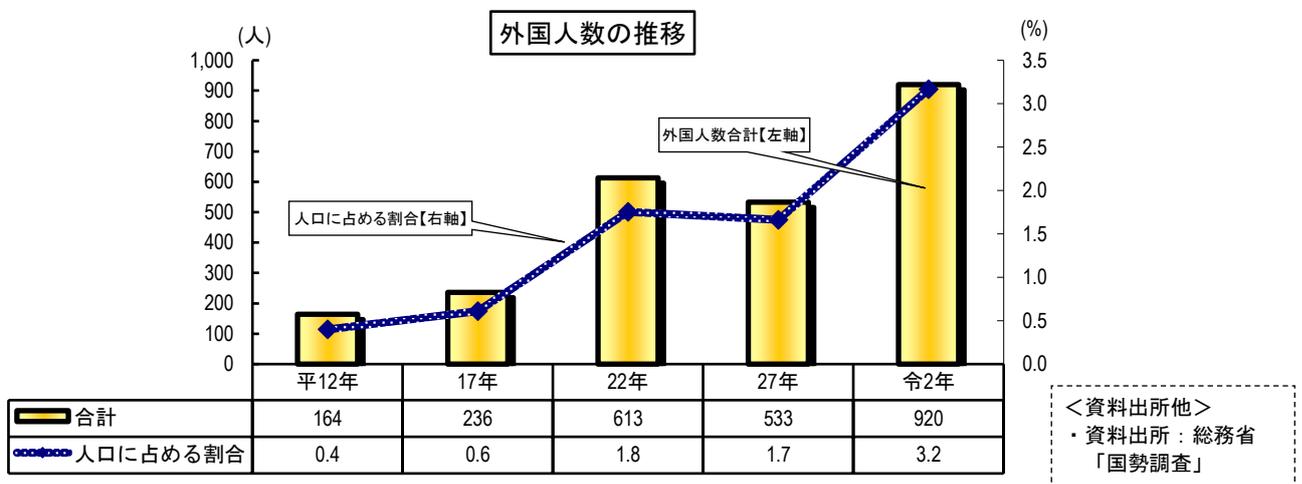
本市の年齢3区分別の人口は、15歳未満人口（年少人口）及び15歳から64歳（生産年齢人口）がともに減少を続けている。一方、65歳以上人口（老年人口）は、これまで増加を続けていたが、平成22年に初めて減少に転じ、その後減少傾向にある。



<資料出所他>
・資料出所：総務省「国勢調査」

4. 外国人数

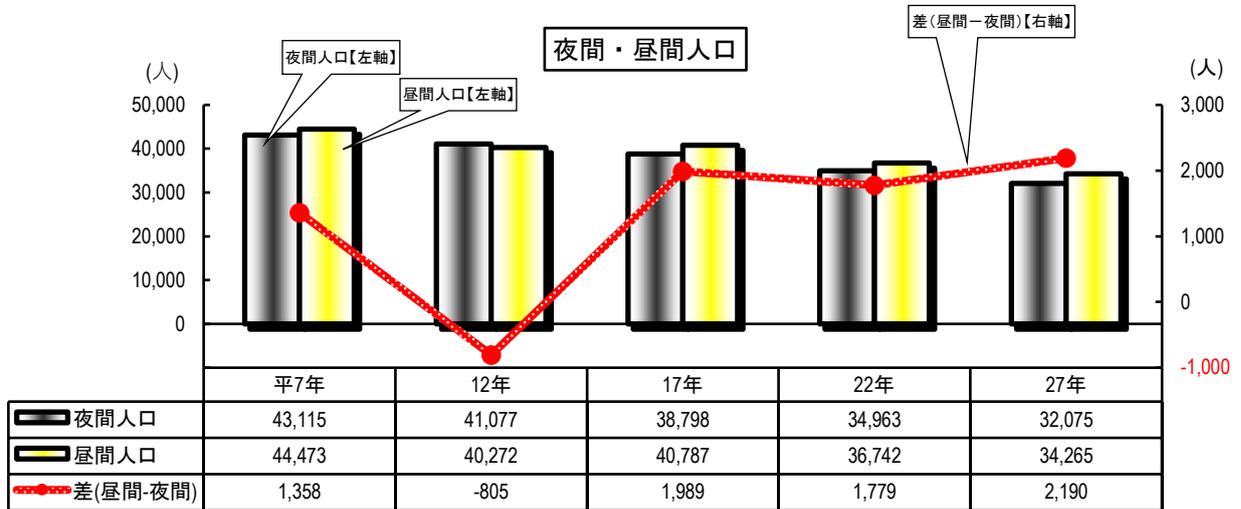
本市の外国人の数は増加しており、平成12年から令和2年の20年間で756人増加し、人口の3.2%を占めている。これは、大学等への留学生、外国人技能実習生の増加によるものである。



<資料出所他>
・資料出所：総務省「国勢調査」

5. 夜間・昼間人口

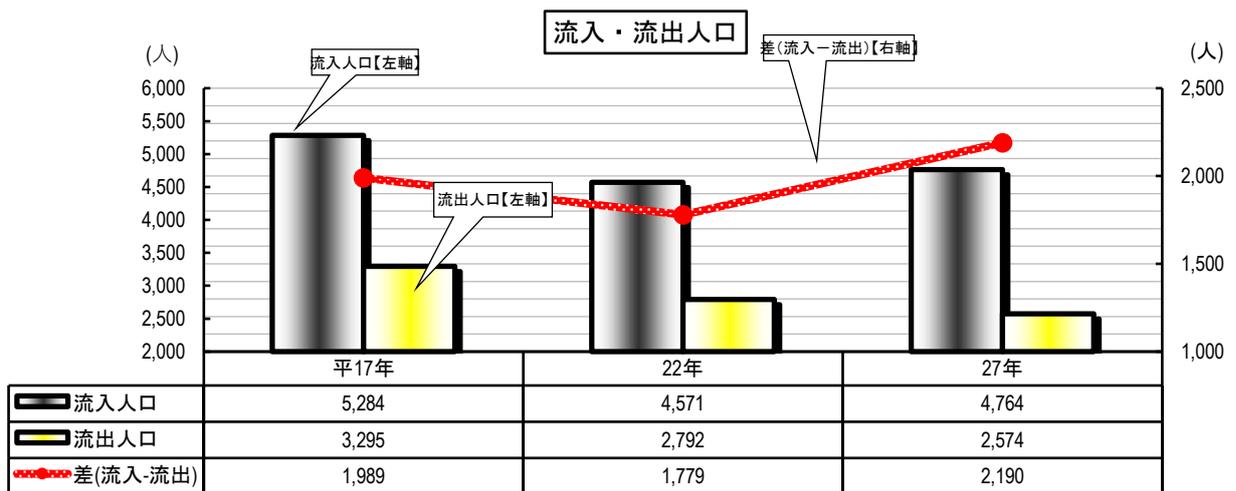
本市の夜間（常住）人口と昼間（通学・通勤）人口を比較すると、平成12年を除いて昼間人口の方が多くなっている。主な要因として、高校、大学等への通学者や就業者が考えられる。



<資料出所他>
・資料出所：総務省「国勢調査」

6. 流入・流出口

本市の流入人口は5,000人程度で推移し、流出人口は3,000人程度で推移している。

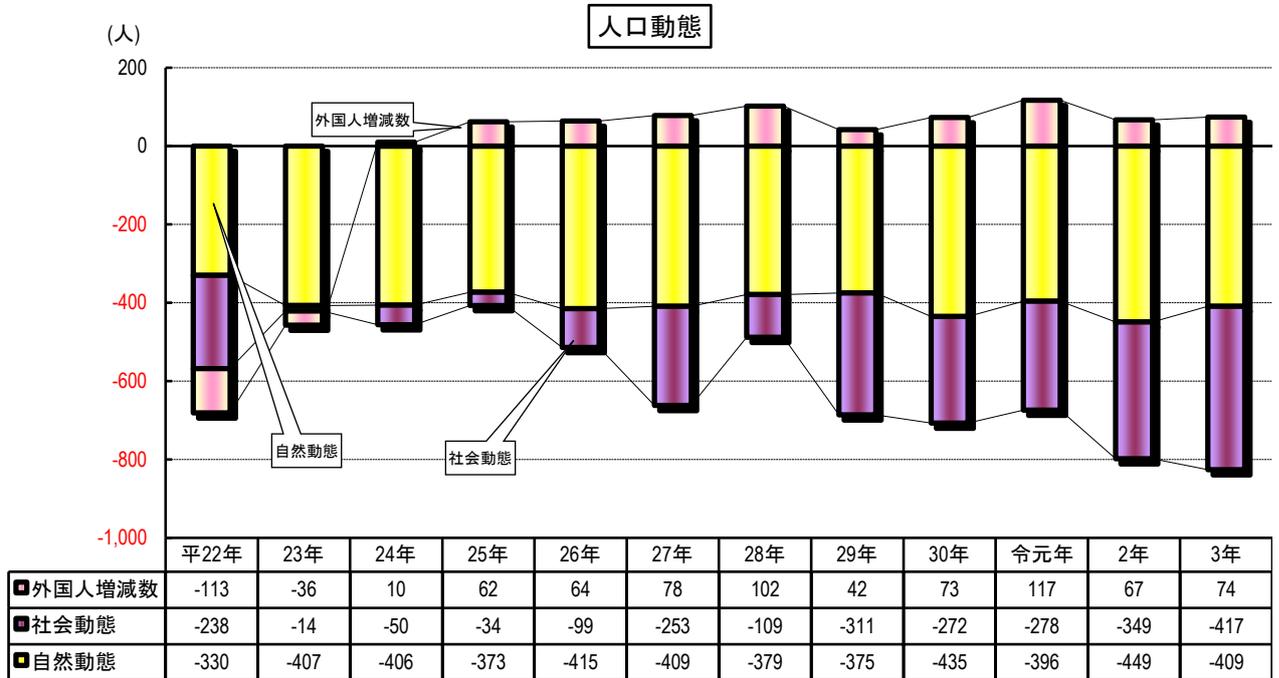


<資料出所他>
・資料出所：総務省「国勢調査」
・本グラフにおける流入人口とは高梁市以外に常住し高梁市に通勤通学する人口、流出人口とは高梁市に常住し高梁市以外へ通勤通学する人口のこと。

7. 人口動態

人口動態は、社会動態が平成23年には△14人と改善された年もあるが、社会動態、自然動態ともに毎年200人～400人のマイナスで推移している。

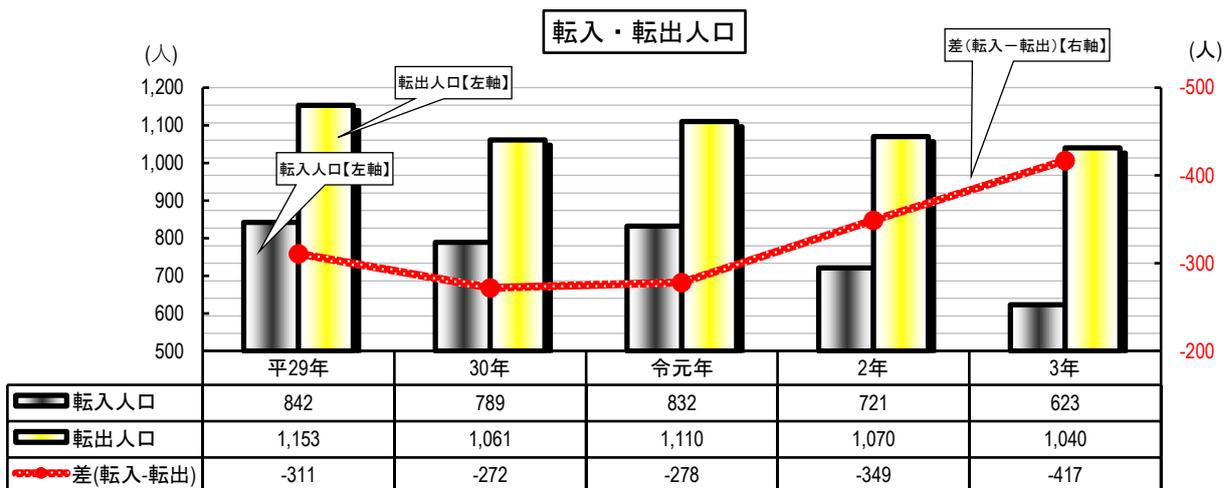
外国人数は平成24年以降、増加傾向にある。



<資料出所他>
・資料出所：岡山県「毎月人口流動調査」

8. 転入・転出人口

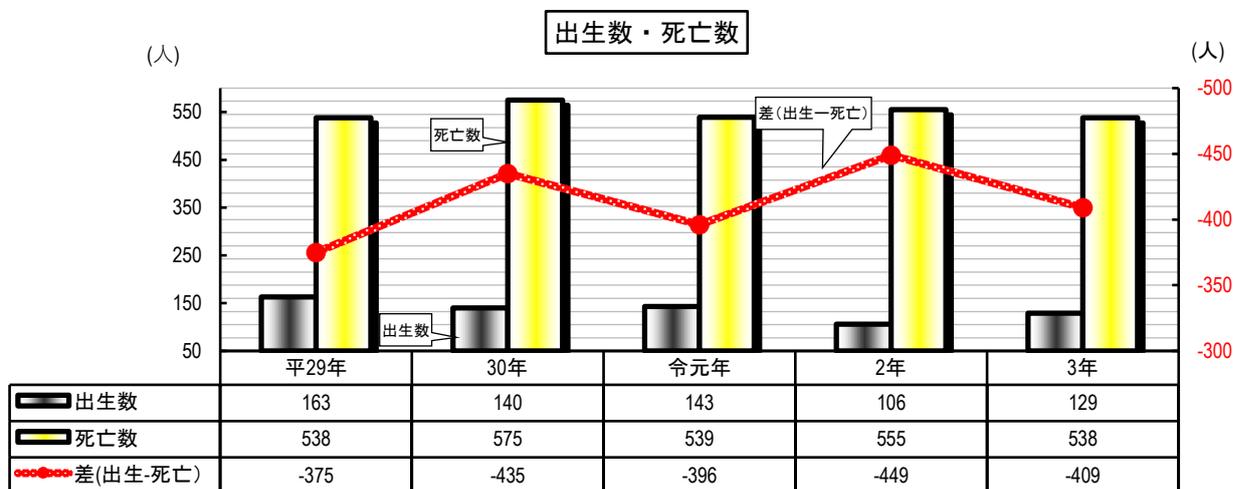
本市の転入人口と転出人口を比較すると、転出人口の方が300人ほど多くなっている。



<資料出所他>
・資料出所：岡山県「毎月流動人口調査」

9. 出生数・死亡数

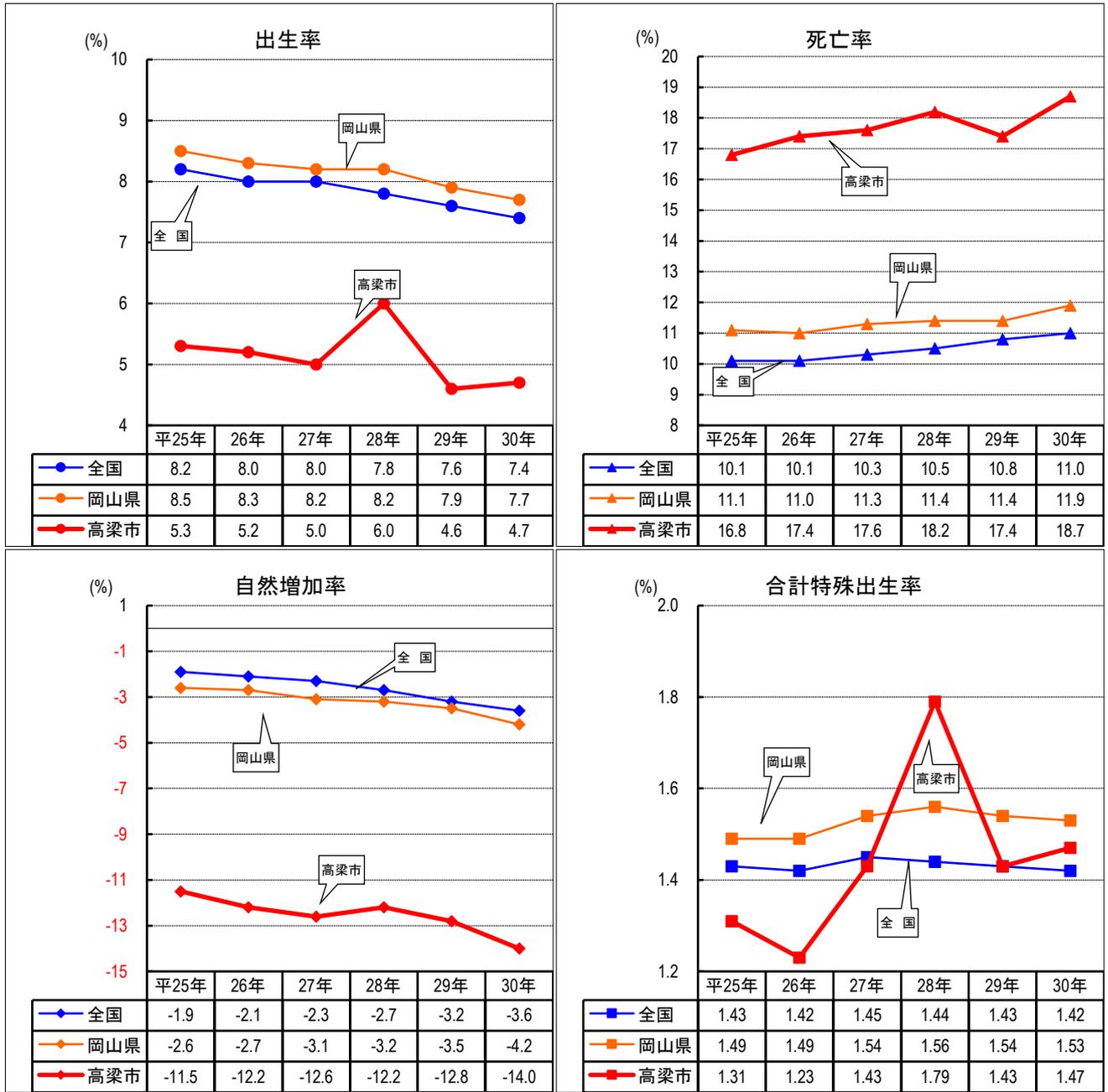
本市の出生数は減少傾向にある。死亡数は550名程度で推移している。



<資料出所他>
・資料出所：岡山県「毎月人口流動調査」

10. 出生率・死亡率・合計特殊出生率

本市の出生率は、全国・岡山県と比較して大幅に低く、死亡率は6～7ポイント程度高くなっている。自然増加率（出生率と死亡率の差）は、全国及び岡山県に比べて低水準で推移している。また、合計特殊出生率は全国・岡山県とは異なり年によって変化が大きい。



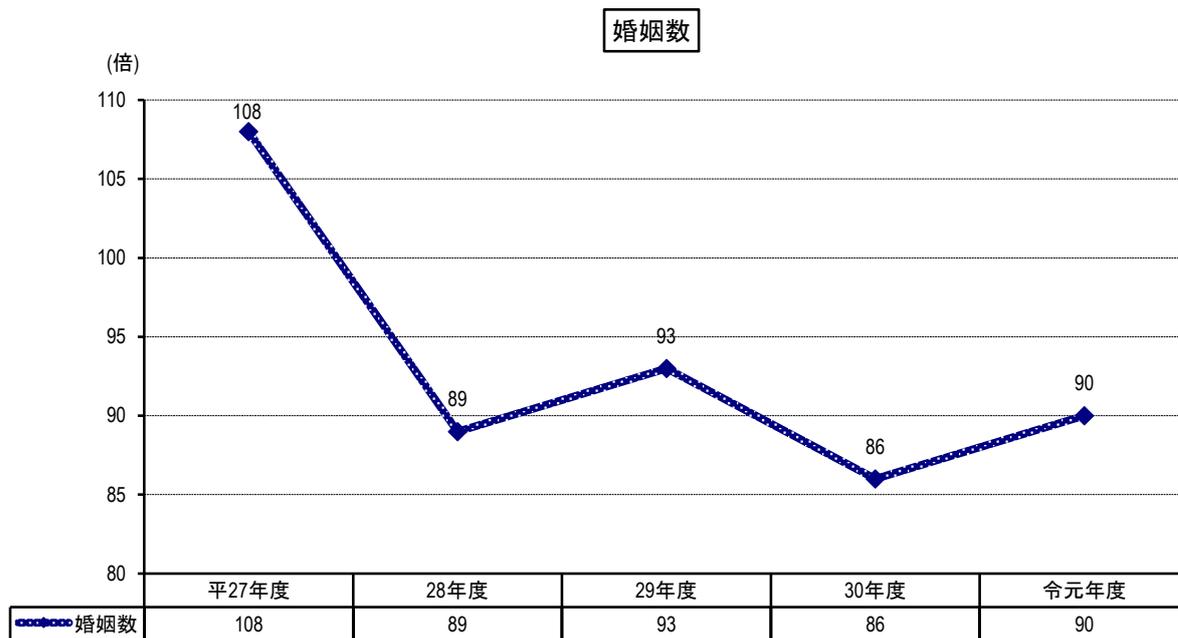
・出生率は、一定期間の出生数の人口に対する割合。人口1000人当たりの年間の出生児数の割合。
 ・死亡率は、一定期間の死亡数の人口に対する割合。人口1000人当たりの年間の死亡者数の割合。
 ・自然増加率は、出生率と死亡率の差。
 ・合計特殊出生率は、出産可能年齢(15～49歳)の女性に限定し、一人の女性が生涯、何人の子供を産むのかを推計したもの。
 現在の日本の人口置換水準(人口が増加も減少もしない均衡した状態となる合計特殊出生率の水準のこと。)は、2.07(平成17年版厚生労働白書)。

<資料出所他>

・資料出所：
岡山県「岡山県衛生統計年報」

11. 婚姻数

婚姻数は減少傾向にある。

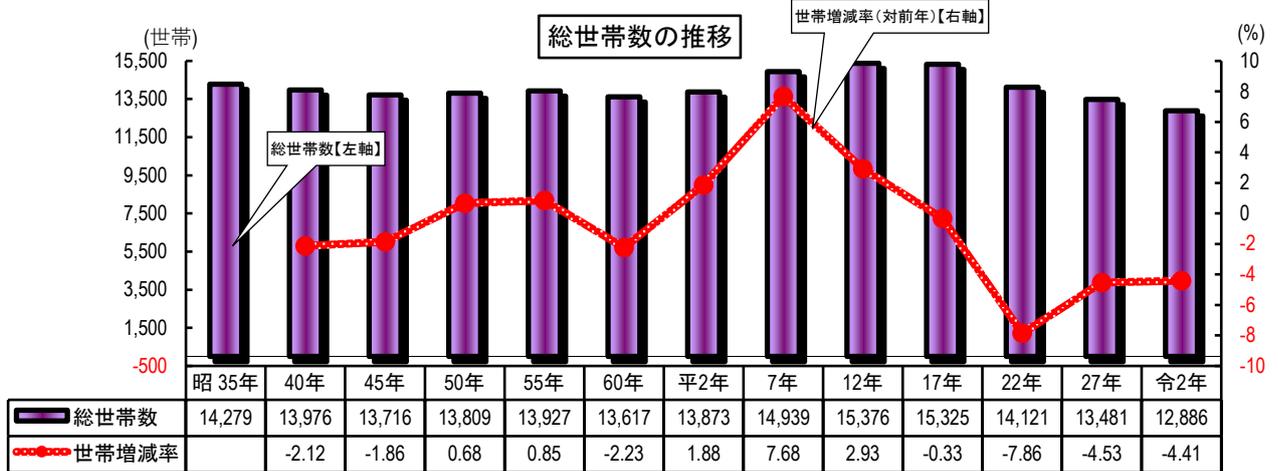


<資料出所他>
・資料出所：岡山県統計年報

12. 総世帯数

本市の総人口のピークは昭和25年であったが、総世帯数のピークは、平成12年で15,376世帯となっている。これは、単独世帯となる一人暮らしの学生が増えたことが主な要因だと思われる。

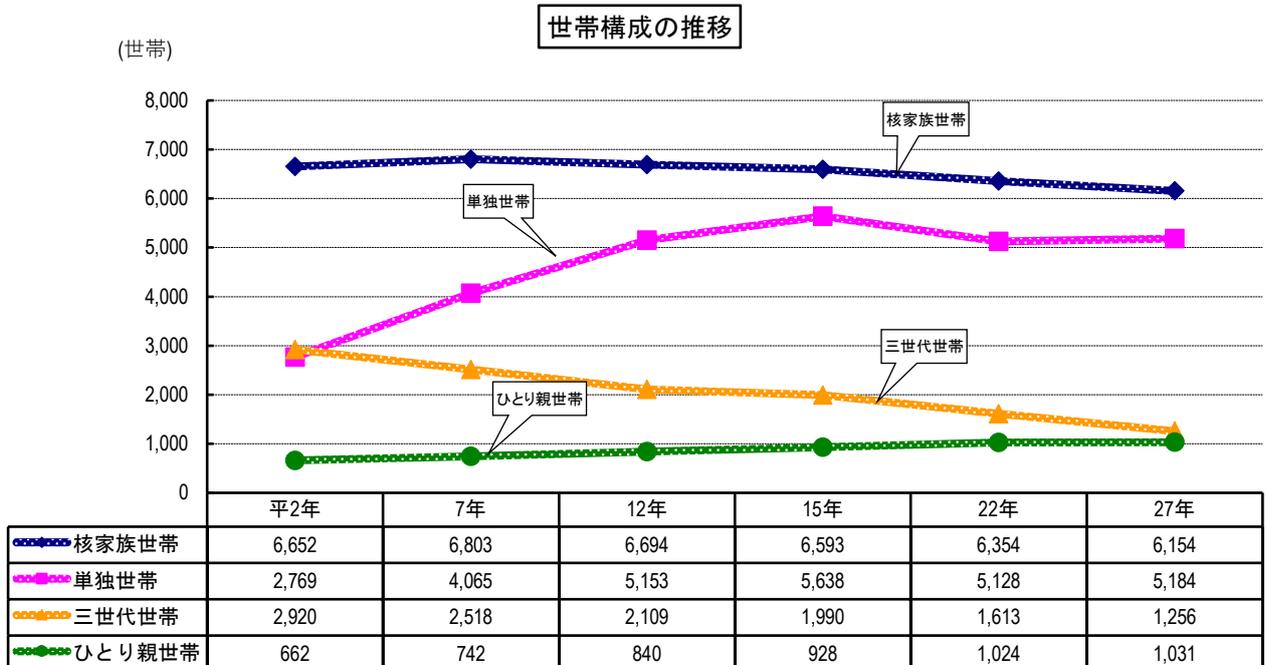
平成12年以降、総世帯数は減少に転じ、平成22年から令和2年の10年間で1,000世帯以上減少しており、学生数と連動している。



<資料出所他>
・資料出所：総務省「国勢調査」

13. 世帯構成

本市の世帯構成を見ると、吉備国際大学が開学した平成2年以降、単独世帯が急増している。核家族世帯は、ほぼ横ばいで推移しているが、三世帯世帯は減少を続けており平成27年には、平成2年の半数以下まで落ち込んだ。ひとり親世帯は、少ないながら増加を続けている。

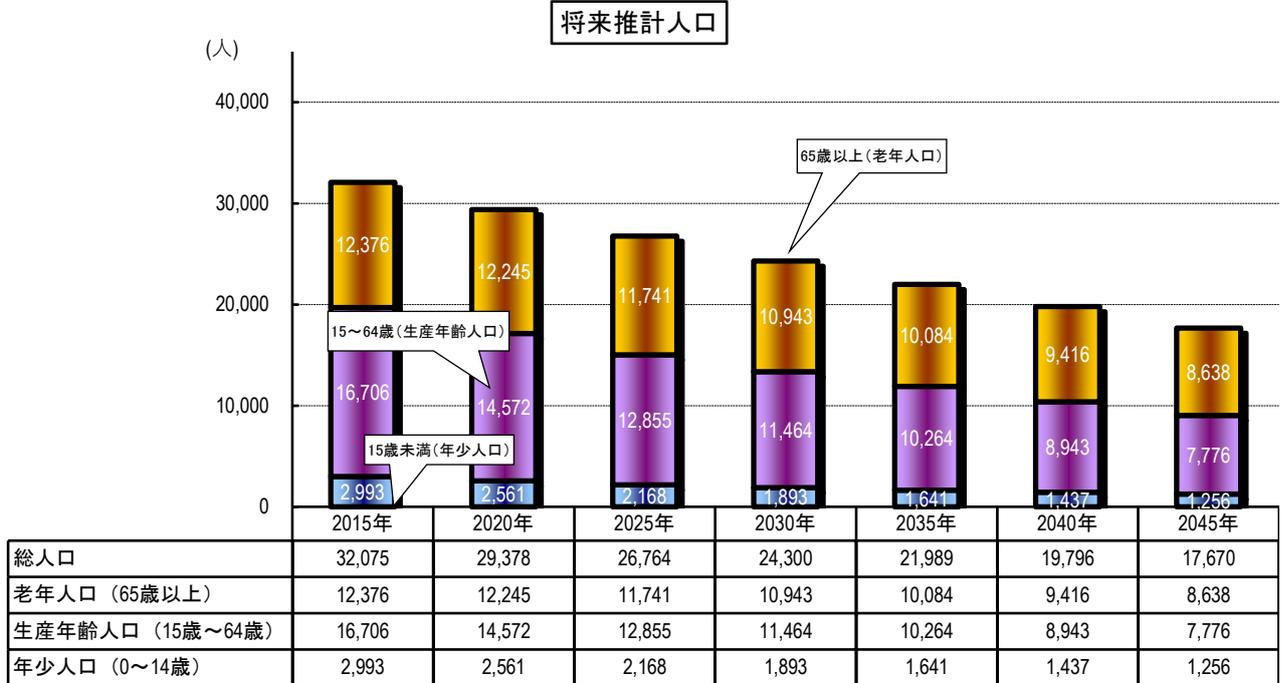


<資料出所他>
・資料出所：総務省「国勢調査」

14. 将来推計人口

本市の将来推計人口は、減少の一途を辿り、2045年には2015年人口の約55%になると推計されている。

年齢3区分別の人口に対する割合をみると、2015年には、年少人口9.3%、生産年齢人口52.1%、老年人口38.5%であったものが、2045年には、年少人口7.1%、生産年齢人口44%、老年人口48.9%になると推計されており、今後ますます少子・高齢化が進むことが予測される。

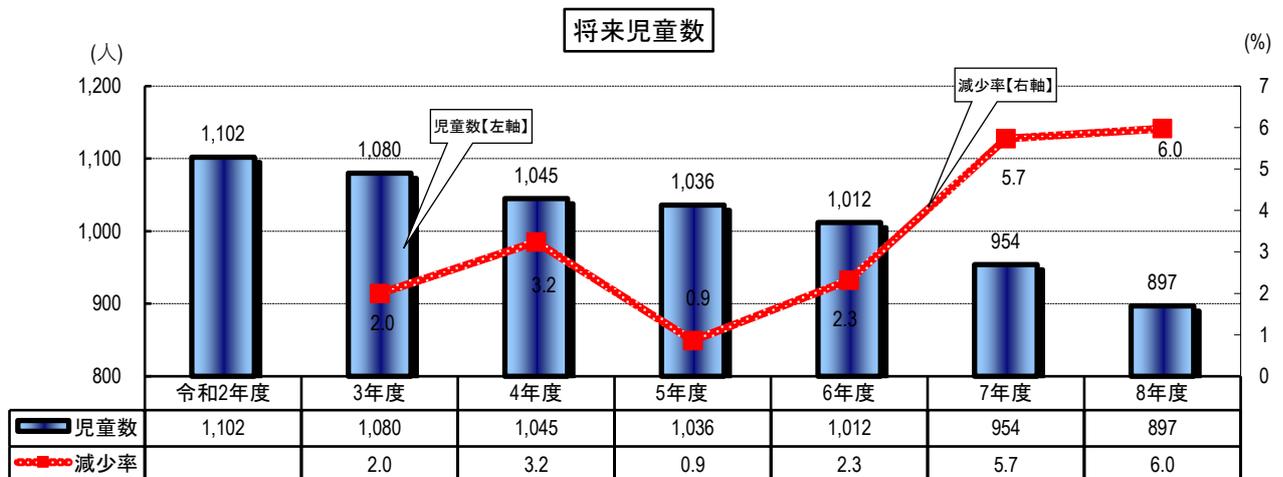


<資料出所他>

・資料出所：国立社会保障・人口問題研究所
「日本の市区町村別将来推計人口」(平成29年12月推計)

15. 将来児童数

本市の将来児童数は、減少を続け、令和8年度には897人となり令和2年度(1,102人)の81%程度になると推計される。



<資料出所他>

・資料出所：教育委員会事務局学校教育課

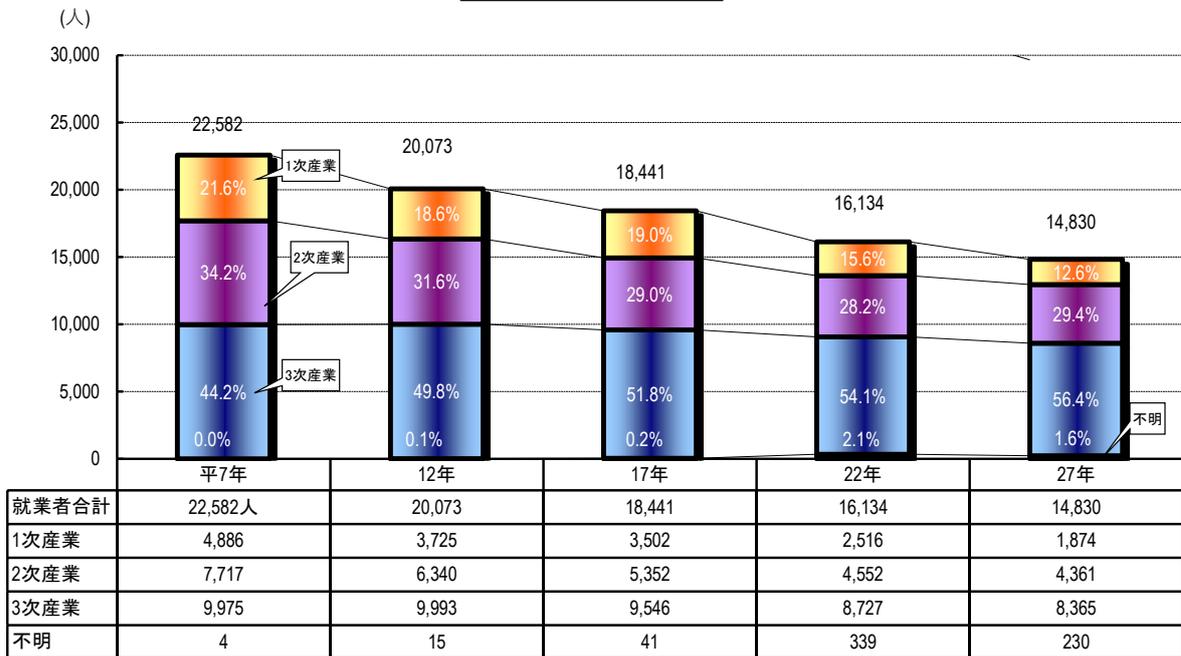
C 経済・産業

1. 産業別就業者数

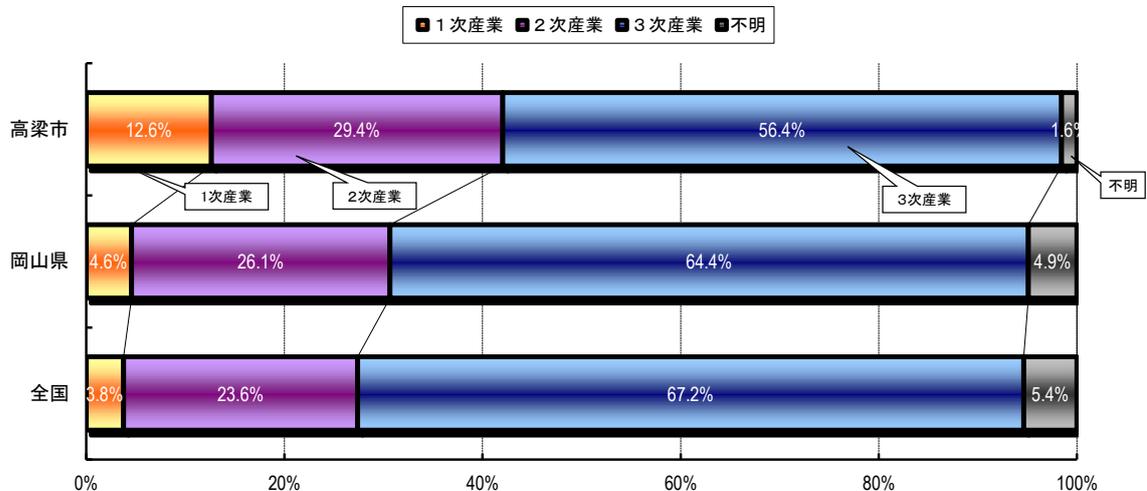
本市の就業者数は、減少を続けており、平成27年には平成7年の66%程度まで落ち込んでいる。また、産業別就業者数も全ての区分で減少しているが、構成比をみると、1次・2次産業が減少を続けている一方で、3次産業は増加している。

産業別就業者割合は、全国・岡山県と比較すると、1次産業の割合が3倍程度になっている一方、2次産業は同程度、3次産業の割合は低くなっている。このことから、本市は農業が基幹産業であることがうかがえる。

産業別就業者数の推移



産業別就業者割合（平成27年）

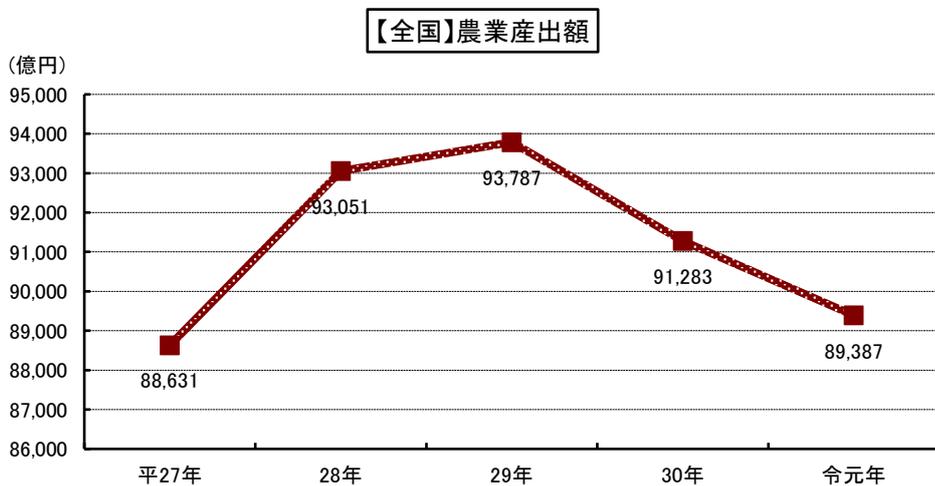


<資料出所他>
・資料出所：総務省「国勢調査」

2. 農業産出額

本市の農業産出額は、75億～90億円前後で推移している。

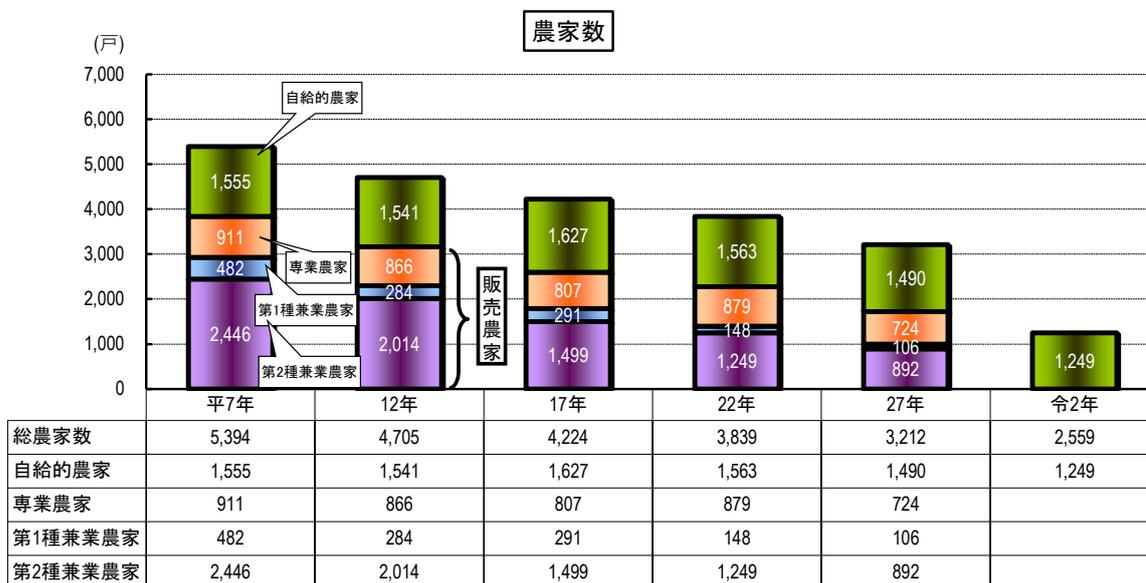
全国・岡山県の農業産出額は増加傾向にあったものの、平成30年度に一度減少に転じている。



<資料出所他>
・資料出所：農林水産省
「生産農業所得統計」

3. 農家数

本市の農家数は減少を続けており、平成12年から令和2年の約20年間で2,000戸以上減少している。農家を種別ごとにみると、専業農家の数はほぼ横ばいで推移している反面、第1種及び第2種兼業農家が数・割合ともに減少し、自給的農家の割合が増加している。

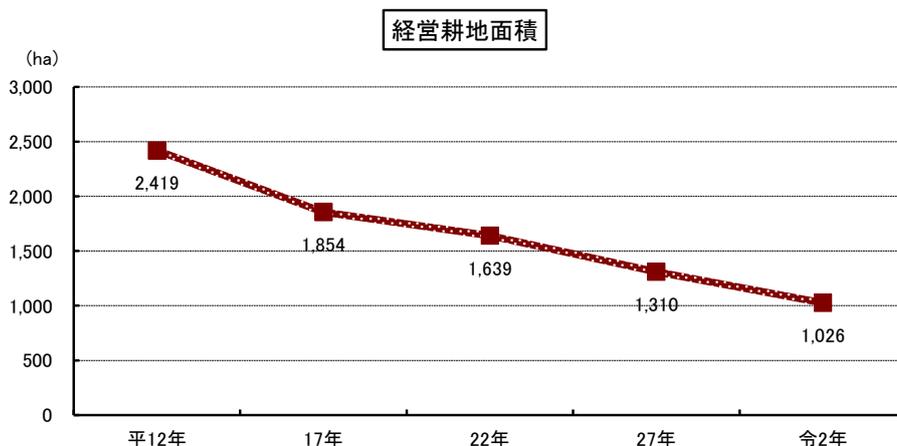


<資料出所他>

- 資料出所：農林水産省「農林業センサス」
- 語句の定義は以下のとおり
 - 「販売農家」…経営耕地面積が30a以上又は調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円以上の農家をいう。
 - 「自給的農家」…経営耕地面積が30a未満かつ調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円未満の農家をいう。
 - 「専業農家」…世帯員の中に兼業従事者が1人もいない農家をいう。
 - 「第1種兼業農家」…農業所得を主とする兼業農家をいう。
 - 「第2種兼業農家」…農業所得を従とする兼業農家をいう。
- 令和2年度は調査項目の削減により専業農家・兼業農家の数値が出ない。

4. 経営耕地面積

本市の経営耕地面積は、平成12年には2,419haであったが、令和2年には1,026haとなり、20年間でほぼ半減している。



<資料出所他>

- 資料出所：農林水産省「農林業センサス」
- 経営耕地面積とは、調査期日現在で農林業経営体が経営している耕地をいい、自家で所有し耕作している耕地（自作地）と、よそから借りて耕作している耕地（借入耕地）の合計。土地台帳の地目や面積に関係なく、実際の地目別の面積。
「経営耕地 = 所有地（田、畑、樹園地） - 貸付耕地 - 耕作放棄地 + 借入耕地」

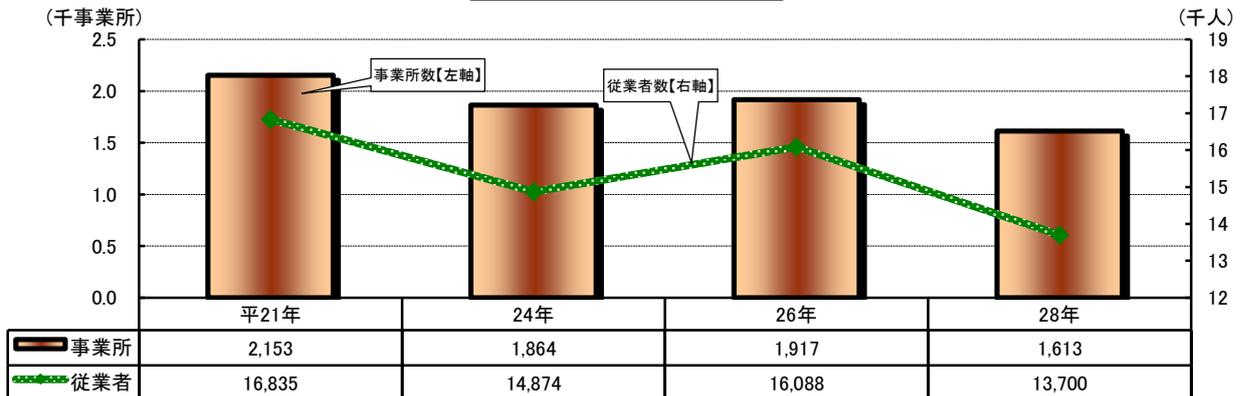
5. 事業所・従業者数

本市の事業所数は、平成21年から減少傾向にある。

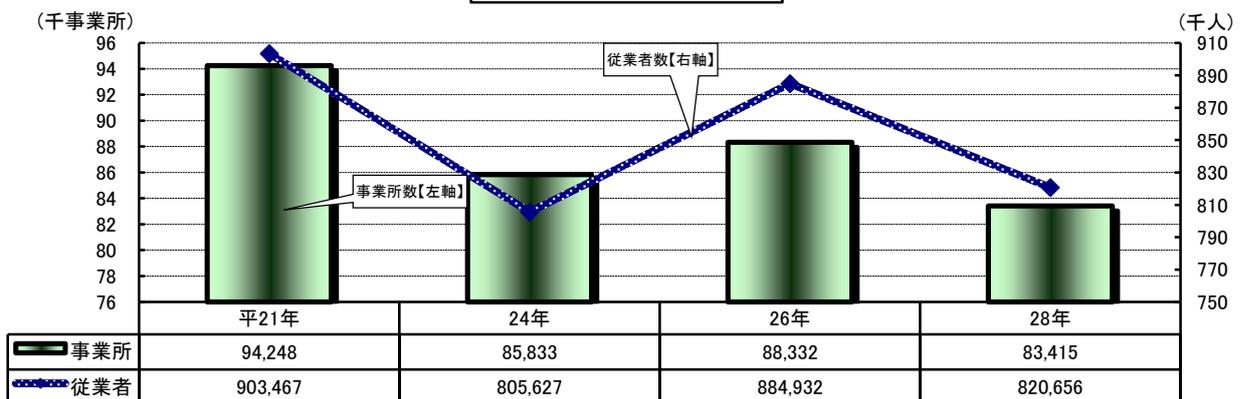
また、本市の従業者数は、平成26年に増加したものの、その後は大幅に減少している。

事業所数・従業者数ともに全国・岡山県とは類似した傾向にある。

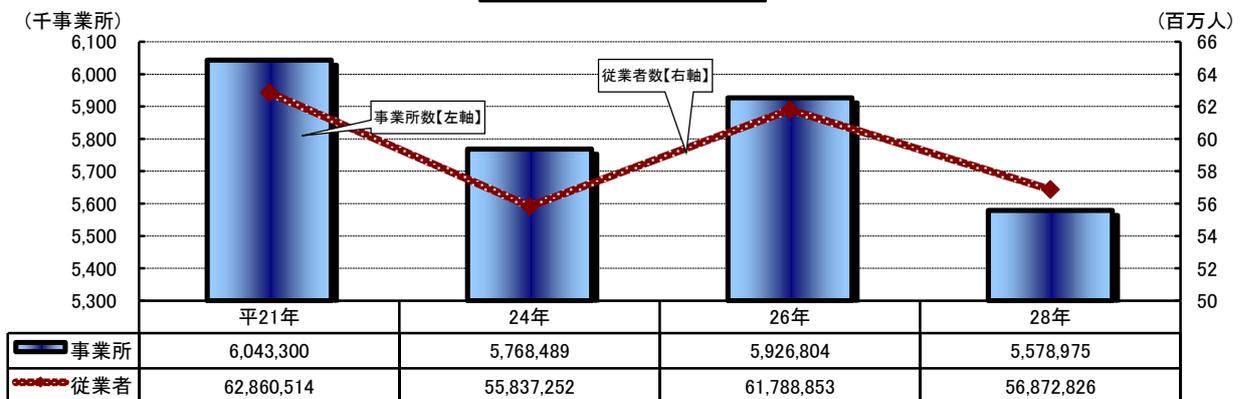
【高梁市】事業所・従業者数



【岡山県】事業所・従業者数



【全国】事業所・従業者数

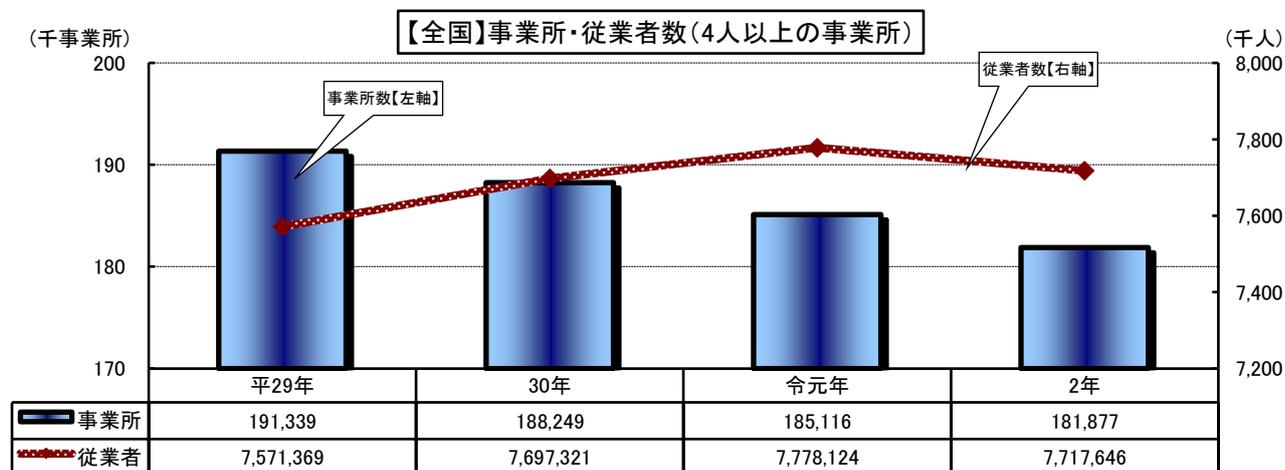
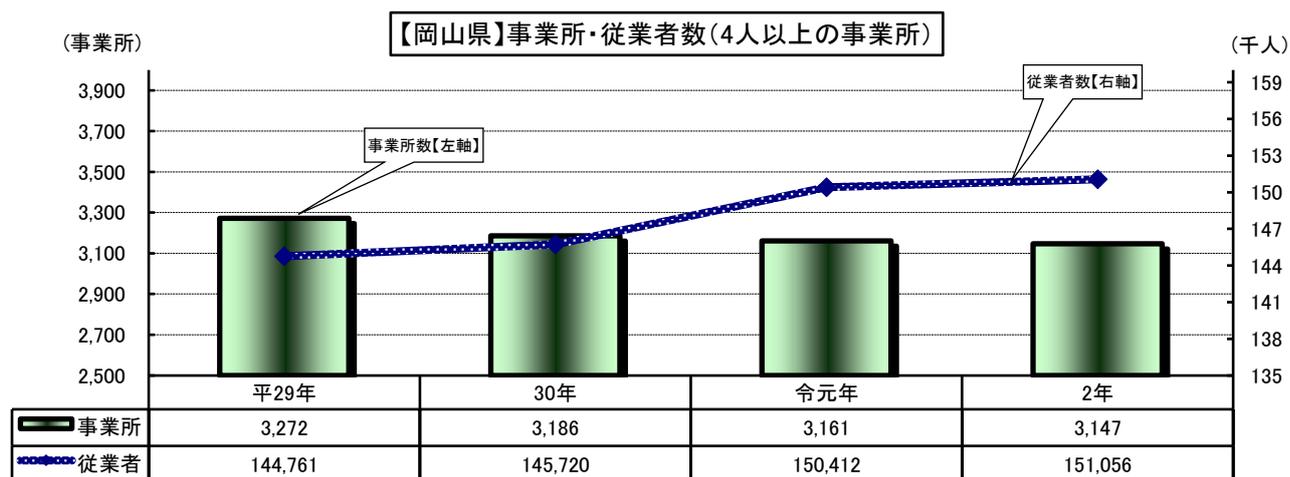
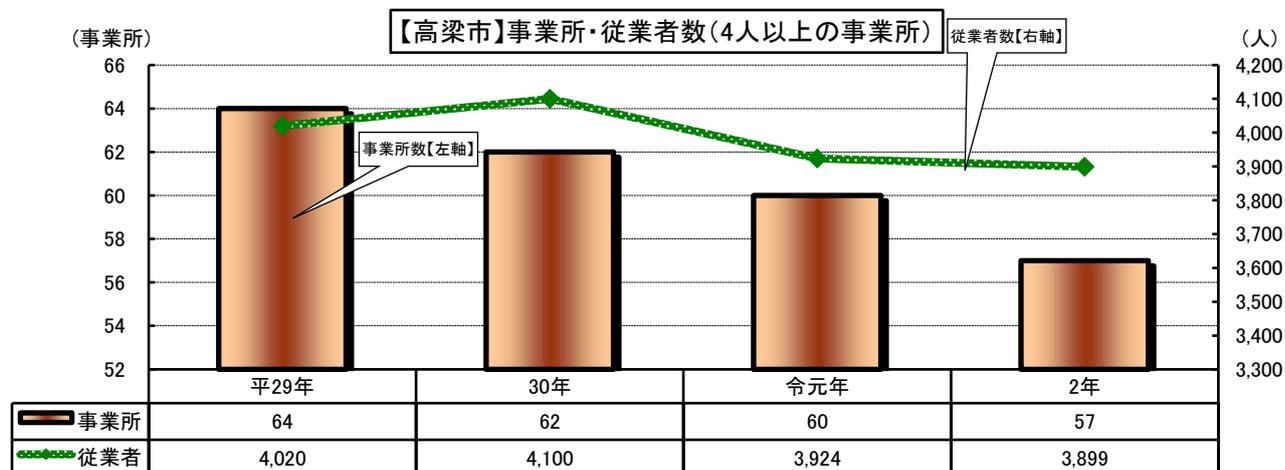


<資料出所他>

・資料出所：経済産業省「経済センサス-基礎調査」（平成21年、26年）、
「経済センサス-活動調査」（平成24、28年）

6. 事業所・従業者数(製造業)

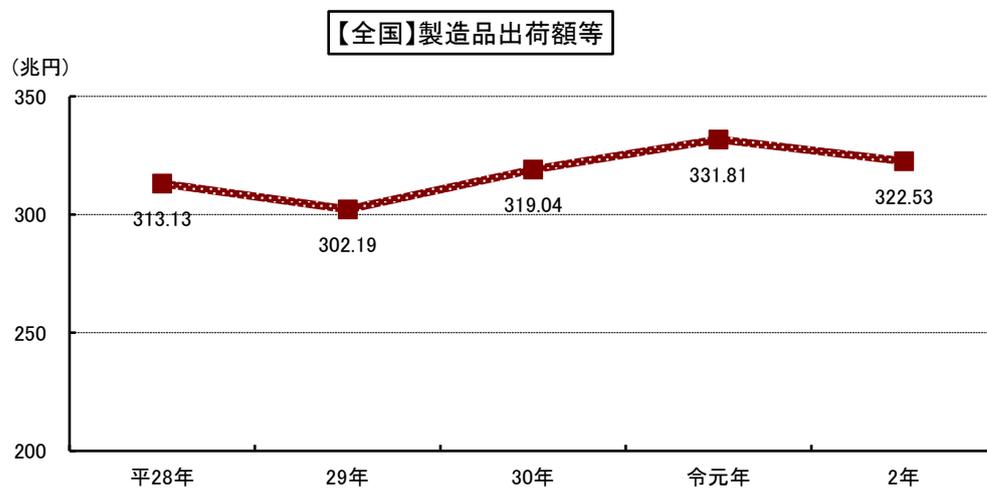
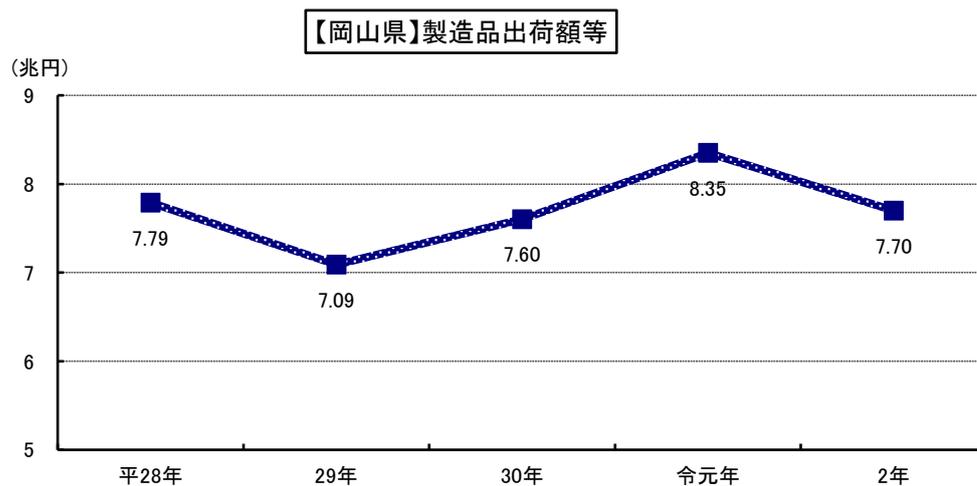
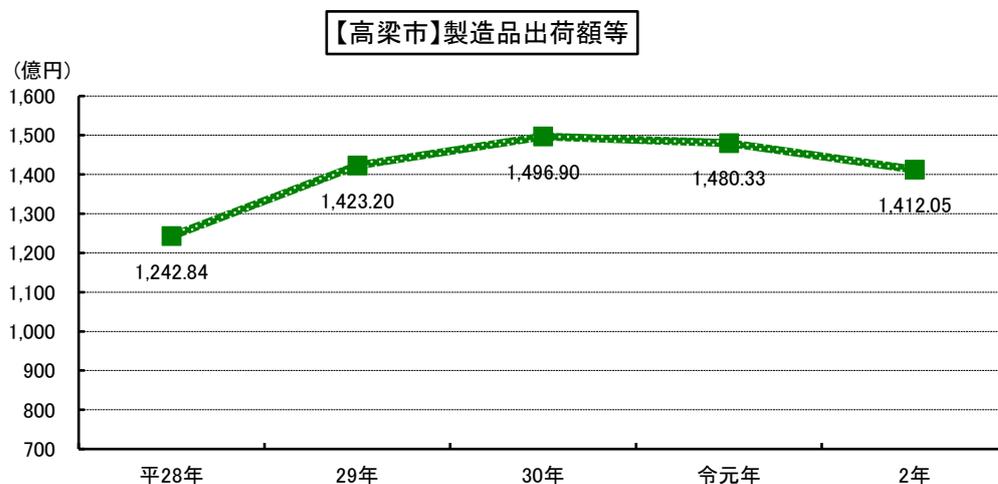
本市にある4人以上の製造業の事業所数は、全国・岡山県と同じように減少している。従業者数は全国・岡山県とは異なり減少傾向にある。



<資料出所他>
・資料出所：経済産業省「工業統計調査」

7. 製造品出荷額等

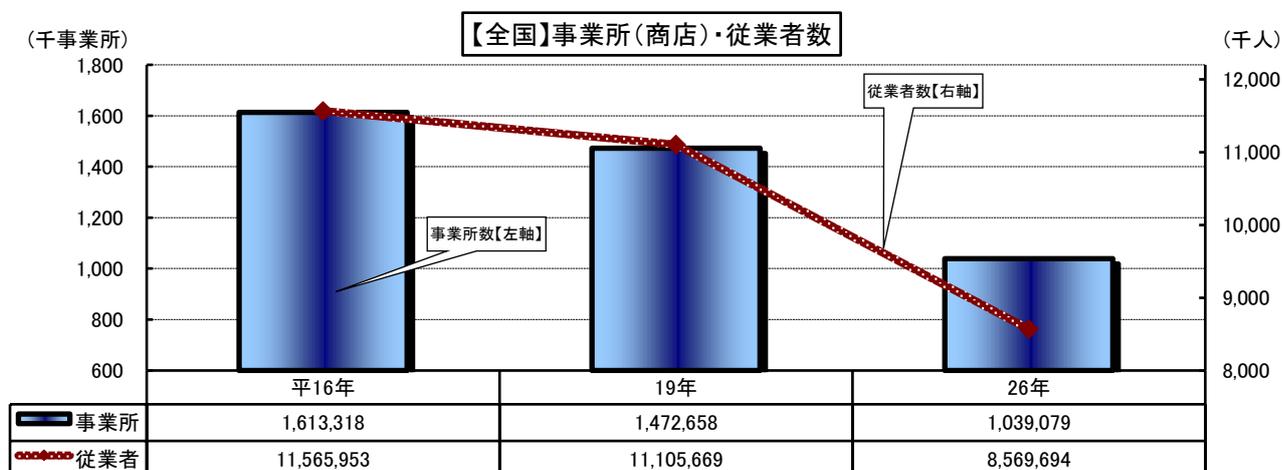
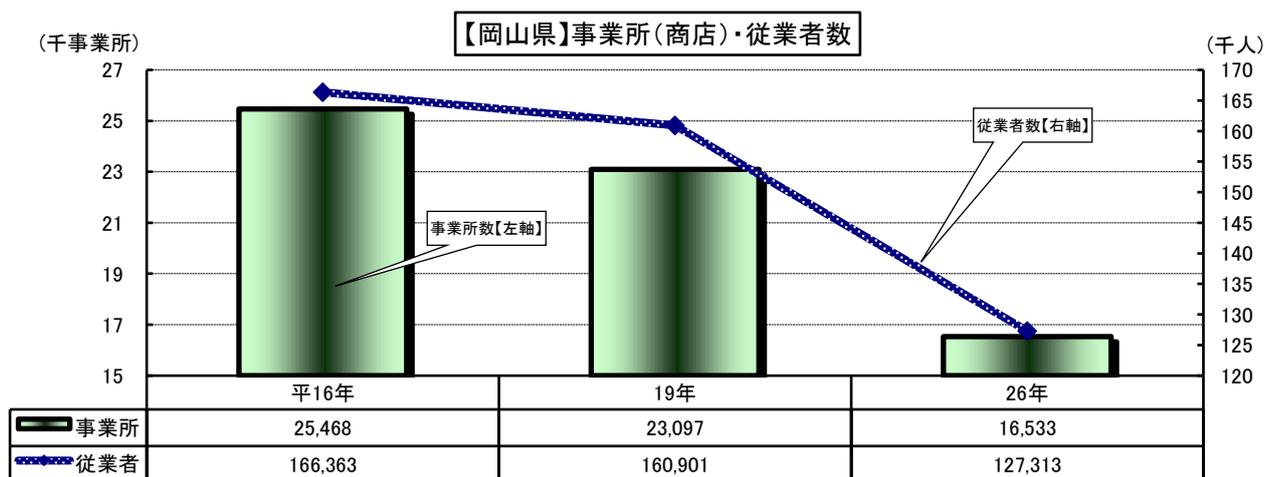
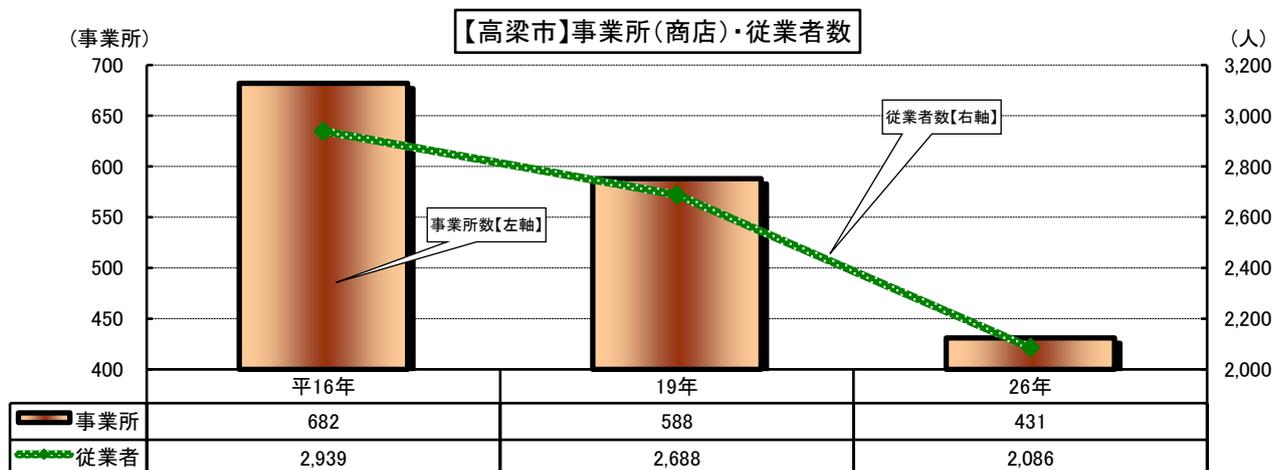
本市の製造品出荷額等は、1,400億円程度で推移している。



＜資料出所他＞
 ・資料出所：
 経済産業省
 「工業統計調査」

8. 事業所(商店)・従業者数(商業)

本市にある商店及びその従業者数は、減少を続けている。全国・岡山県をみても同様の傾向となっている。



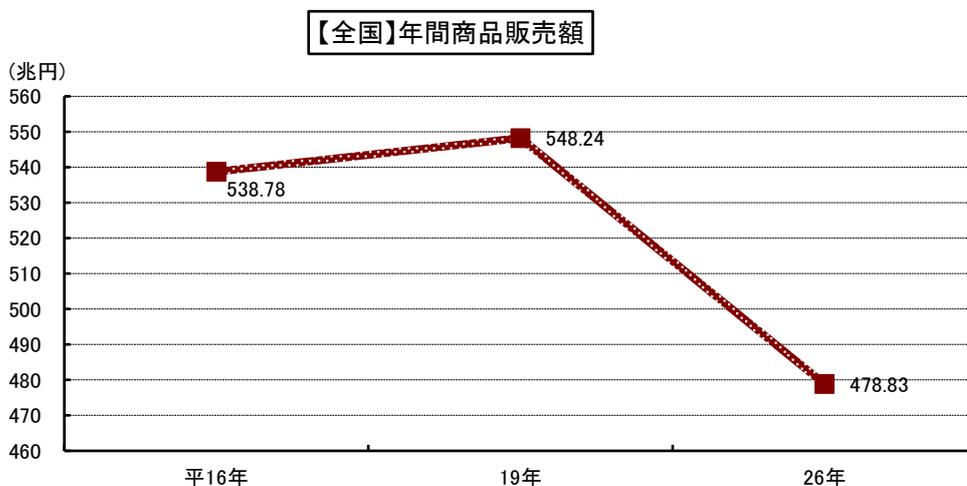
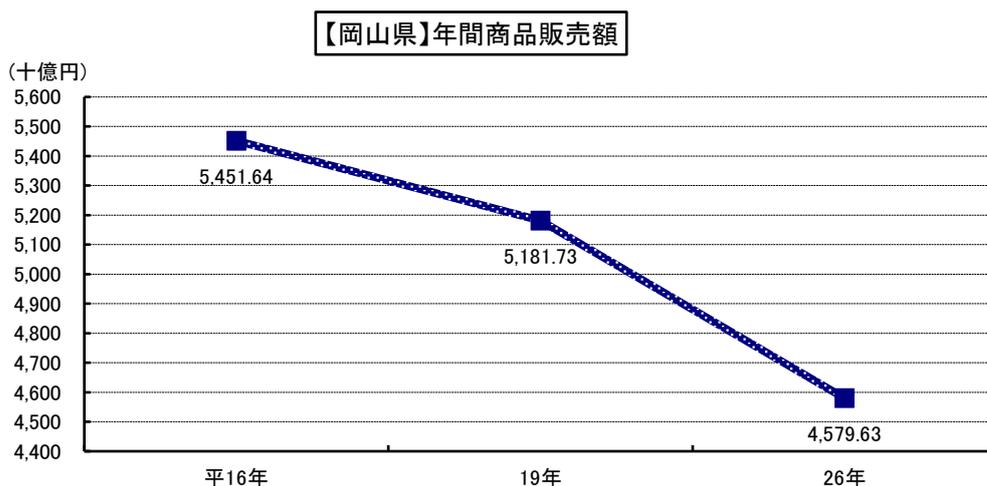
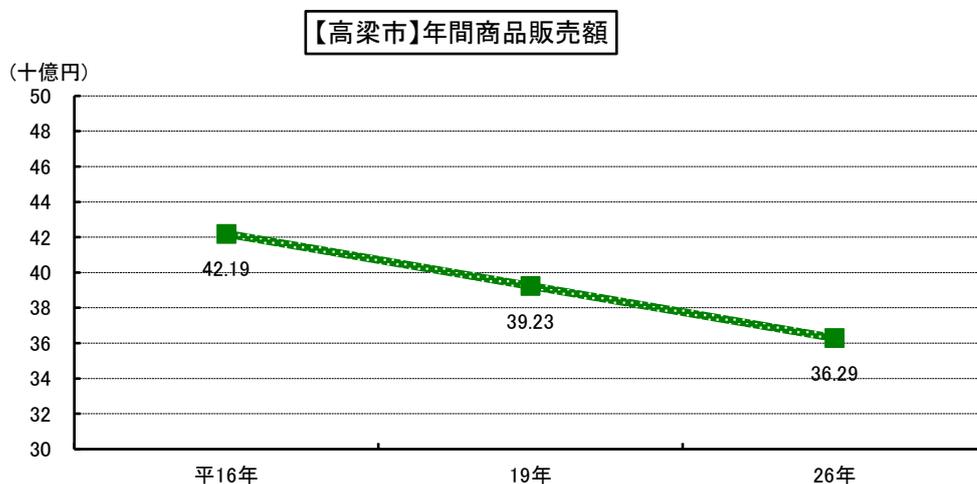
<資料出所他>
 ・資料出所：経済産業省「商業統計調査」
 平成21、24年の商業統計調査は中止。

9. 年間商品販売額

本市の年間商品販売額は、平成16年から減少を続けている。

これは岡山県をみても同様の傾向となっている。

全国・岡山県と比較すると平成19年から26年の間の減少率は緩やかである。



<資料出所他>
 ・資料出所：経済産業省「商業統計調査」
 平成21、24年の商業統計調査は中止。

10. 誘致企業一覧

本市の誘致企業は令和4年1月現在で23社となっている。

昭和35年から平成10年にかけてはコンスタントに企業を誘致していたが、その後は長期間にわたり、誘致がなかったものの、令和3年に興和紡(株)の誘致が決まった。企業立地に適した平地が少ないこと等が、本市における誘致企業が少ない要因の一つだと考えられる。

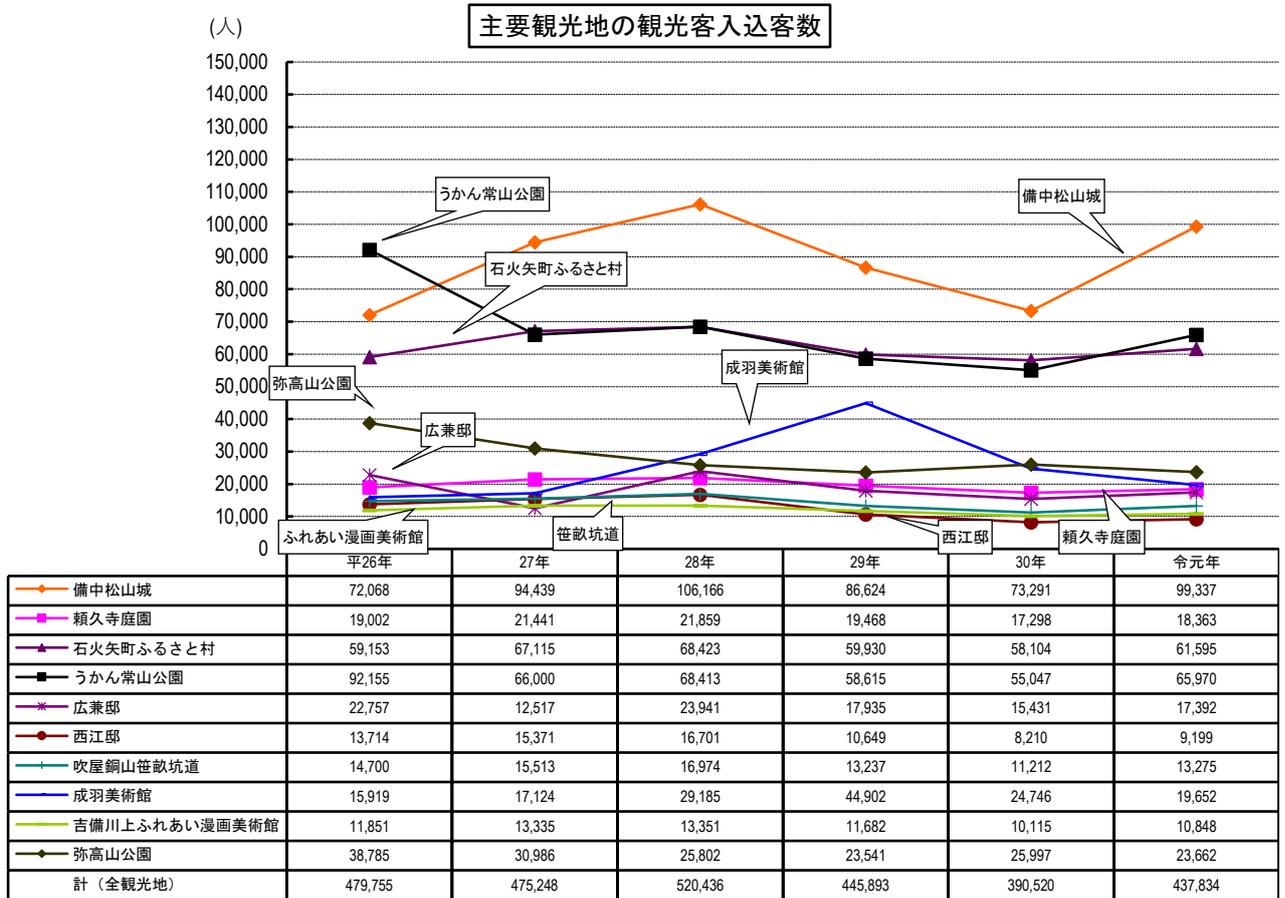
	企業名	業種	所在地	(㎡)	(人)	(千円)	操業年月	ホームページURL
				敷地面積	従業員数	資本金		
1	日本貿易産業(株)	人形部品製造業	本町	3,125	25	15,000	昭35.11	http://www.ohinasama.jp/index.html
2	イーグル工業(株)岡山事業場	輸送品機械器具製造業	落合町阿部	47,478	512	—	昭39.10	http://www.ekk.co.jp/
3	成美工業(株)	ゴム製品製造業	成羽町成羽	2,341	14	—	昭41.10	—
4	丸五シーエス工業(株)	工業用ゴム製品製造販売	有漢町上有漢	10,787	64	—	昭46.4	http://www.marugo-rubber.co.jp/marugo/index.html
5	住友電工焼結合金(株)	輸送品機械器具製造業	成羽町成羽	96,048	800	3,000,000	昭47.11	http://www.sei.co.jp/pmp/profile/koknai01.html#oss
6	日軽形材(株)岡山工場	金属製品製造業	落合町阿部	56,615	207	400,000	昭48.4	http://www2.nikkeikin.co.jp/nkt/top.html
7	(株)ダイラボ	プレス金型製造業	玉川町玉	4,103	25	35,000	昭50.1	http://www.dielabo.co.jp/
8	丸紅畜産(株)岡山事業所農場部	畜産業	備中町西山	479,290	36	—	昭56.3	http://www.marubeni-chikusan.co.jp/index.html
9	岡山イーグル(株)	輸送品機械器具製造業	有漢町有漢	27,890	255	—	昭60.4	http://www.ekk.co.jp/
10	瀬戸内部品(株)	輸送品機械器具製造業	備中町東湯野	8,100	51	—	昭61.3	http://setouchibuhin.co.jp/index.htm
11	堀金属表面処理工業(株)	輸送品機械器具製造業	落合町阿部	7,764	17	—	昭63.2	http://www.horikinzoku.co.jp/
12	武田 Casting(株)	輸送品機械器具製造業	巨瀬町	39,600	98	—	平4.1	http://www5.ocn.ne.jp/~okachu01/kumbain/takeda/index.html
13	(福)旭川荘 望の丘作業所	福祉事業	川上町上大竹	22,433	11	—	平4.4	http://asahigawasou.or.jp/nozominooka/shisetusyokai2.html
14	マルニ(株)岡山工場	事務用品製造業	松山	23,712	33	—	平4.4	http://www.maruni-jp.com/index.html
15	岡山やまう(株)	食料品製造業	川面町	9,304	46	—	平5.1	http://www.yama-u.co.jp/
16	(福)旭川荘 かわかみ療護園	福祉事業	川上町上大竹	10,000	42	—	平6.4	http://www.asahigawasou.or.jp/cor-bin/service/index.cfm?corid=42
17	東洋重機工業(株)	機械器具卸売業	高倉町田井	9,381	8	—	平7.9	http://www.tjk.ne.jp/
18	アグリテクノ矢崎(株)備中工場	農業機械製造業	備中町東湯野	9,120	26	—	平8.11	http://www.agritecno.co.jp/
19	ビーナスベッド(株)	家具・装備品製造業	松山	10,941	3	—	平8.12	http://www.venusbed.co.jp/corporate_data.html
20	山陽化学(株)	橋梁用品製造業	松山	16,309	17	—	平10.8	http://www.sanyo-kagaku.jp/
21	成羽ポーター(株)GPセンター	洗卵・選別・出荷	成羽町下日名	21,273	16	—	平23.7	—
22	東伸運輸(株)高梁営業所	輸送用部品保管配送	玉川町玉	9,500	11	—	平24.12	http://www.toosin.co.jp/
23	興和紡(株)	未定	有漢町有漢	13,335	未定	—	未定	https://www.kowabo.co.jp/

計 23 社

<資料出所他>
・資料出所：産業経済部産業振興課

11. 観光客入込客数

本市の観光客入込客数は、減少傾向にある。主要観光地別にみると、備中松山城は一度減少に転じたものの増加傾向にある。

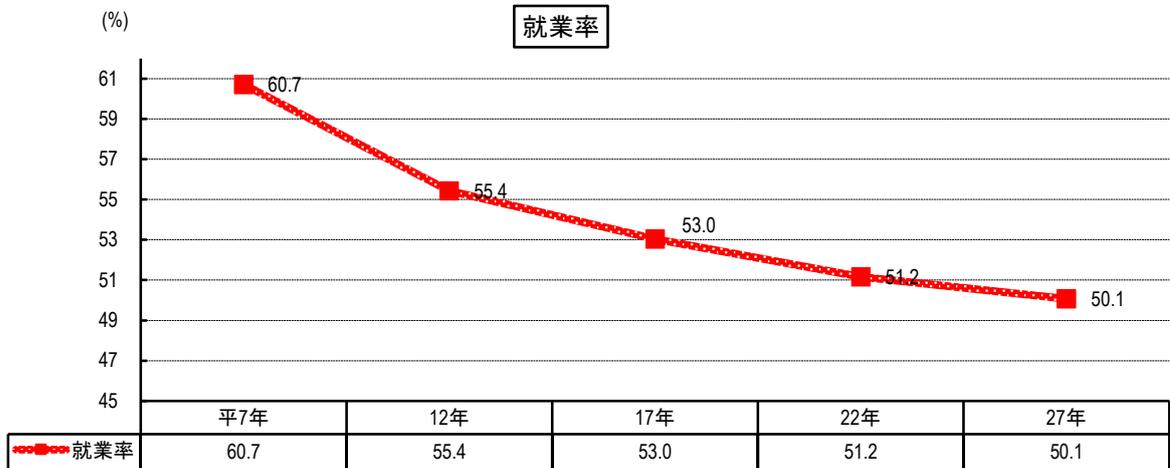


<資料出所他>
・資料出所：産業経済部観光課

D 労働

1. 就業率

本市の就業率は、減少の一途を辿っており、平成7年の60.7%から平成27年には50.1%となり10%以上減少している。原因としては、高学歴化、老年人口の増加などが考えられる。



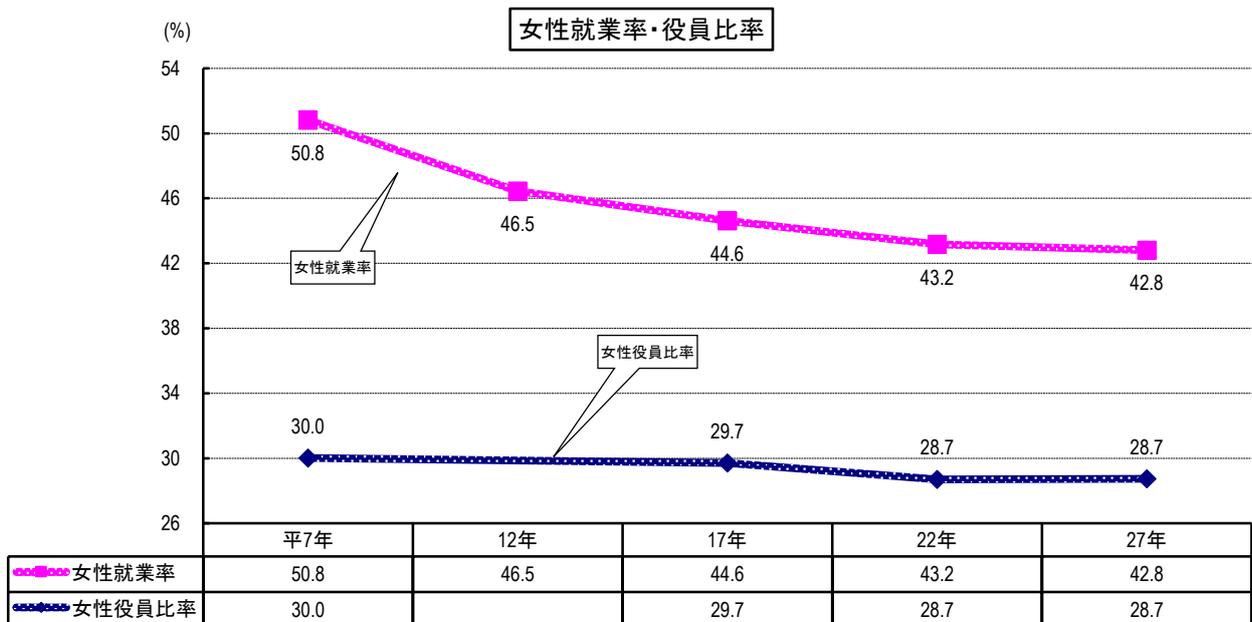
<資料出所他>

- ・資料出所：総務省「国勢調査」
- ・就業率=15歳以上就業者数÷15歳以上人口×100

2. 女性就業率・役員比率

本市の女性就業率は減少を続けており、ここ20年間で約10%低下している。これは、高学歴化・高齢化の影響が考えられる。

また、女性役員比率は、平成7年には30%となったが、その後は微減している。

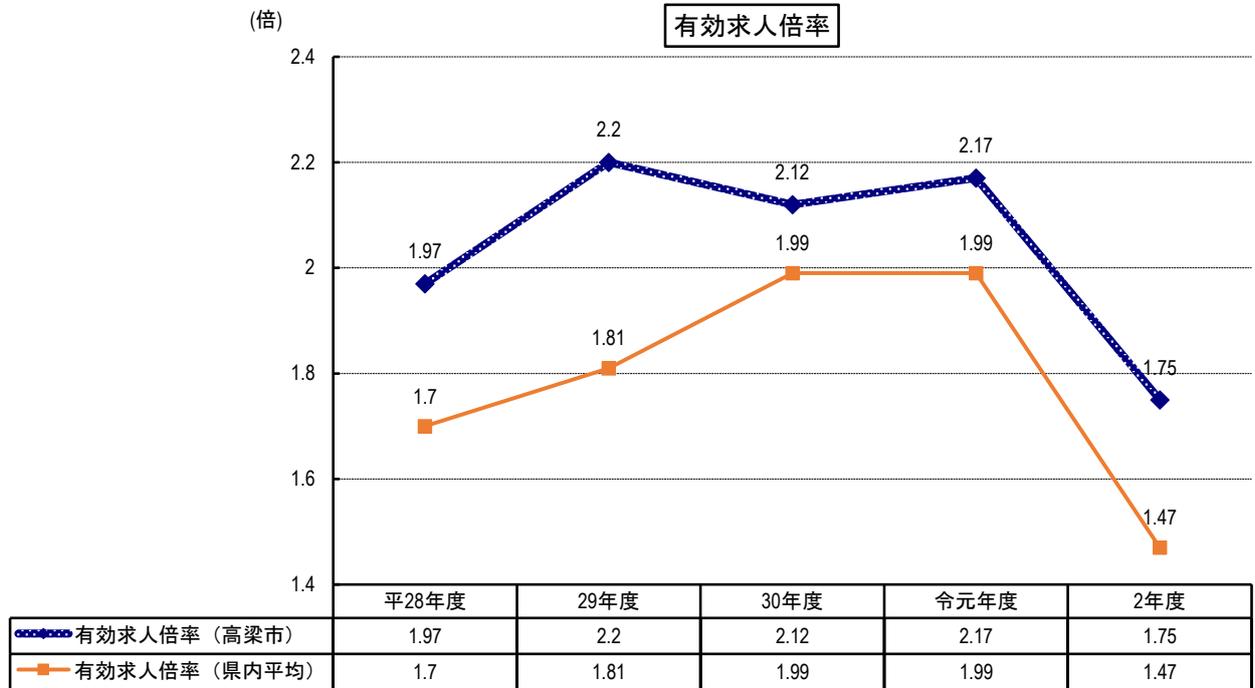


<資料出所他>

- ・資料出所：総務省「国勢調査」
- ・女性就業率=15歳以上女性就業者数÷15歳以上女性人口×100
- ・女性役員比率=女性役員数÷全役員数×100
- ・平成12年は、女性役員比率が出ない。

3. 有効求人倍率

高梁公共職業安定所管内（旧賀陽町を含む。）の有効求人倍率は、新型コロナウイルスの影響により令和2年度に大幅に悪化したものの、県内1位の水準である。

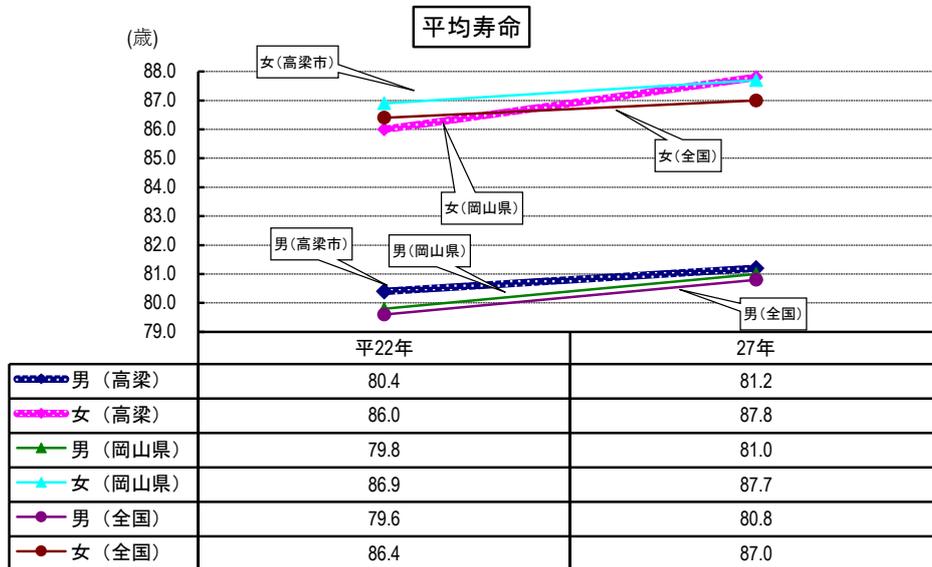


<資料出所他>
 ・資料出所：高梁公共職業安定所調べ
 ・有効求人倍率は、高梁公共職業安定所管内の数字であるため、旧賀陽町（現吉備中央町の一部）を含む。

E 医療・福祉

1. 平均寿命

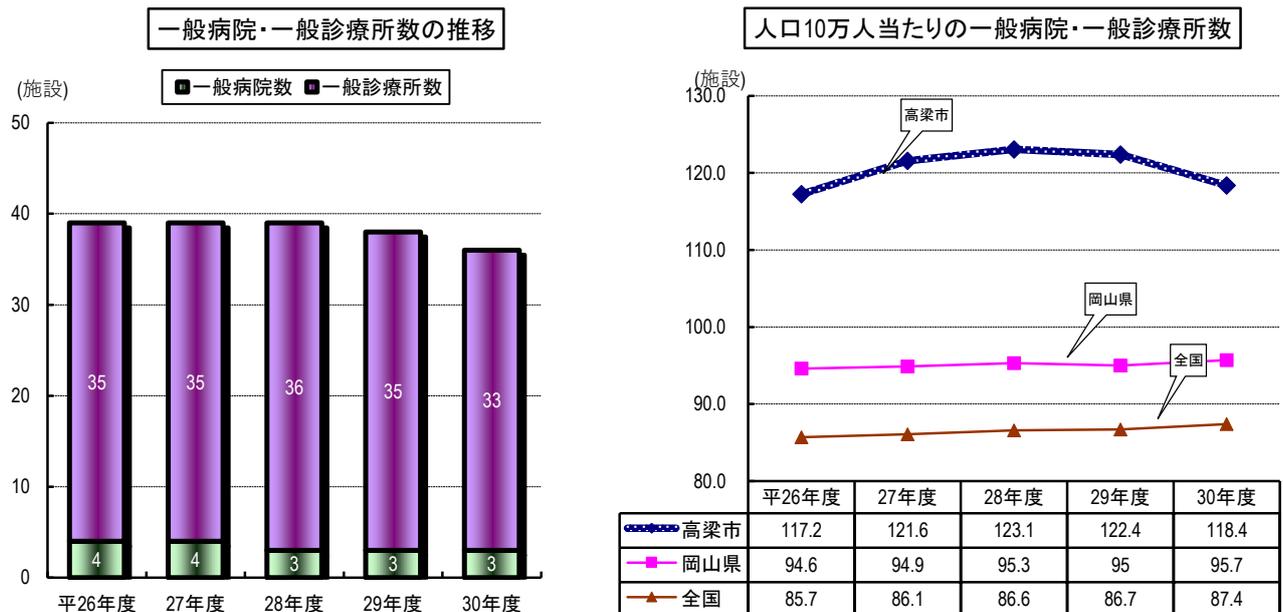
本市の男性の平均寿命は、平成22年、27年ともに、全国・岡山県平均を上回っている。
 本市の女性の平均寿命は、平成22年に、全国・岡山県平均を下回るものの、平成27年にはそれを上回っている。



<資料出所他>
 ・資料出所：厚生労働省「市区町村別平均寿命」

2. 一般病院・一般診療所数

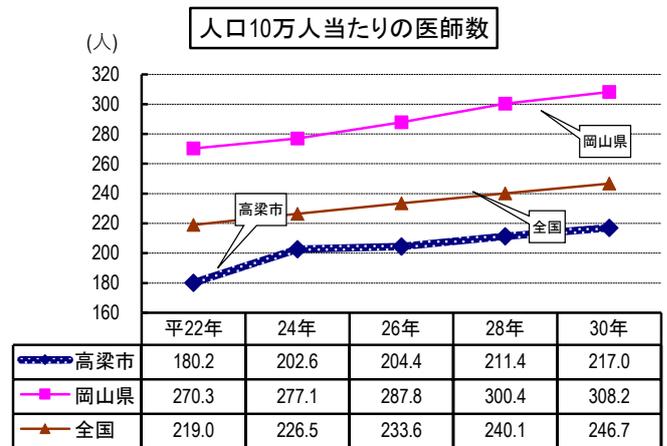
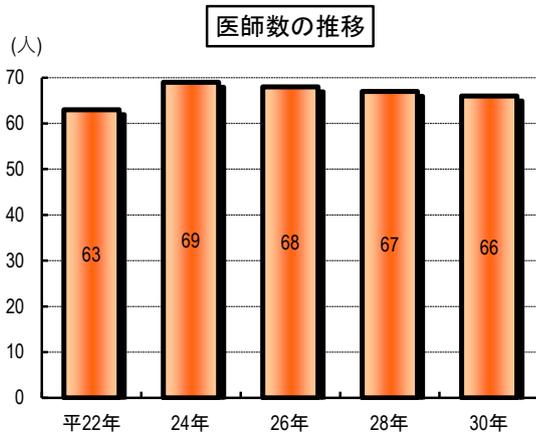
本市の病院、一般診療所数は、ここ数年わずかに減少している。
 人口10万人当たりの数は、全国・岡山県平均に比べ、大幅に上回っている。これは、すべての都道府県でみても上位の数字であり、このことから本市は医療機関が充実していることがうかがえる。



<資料出所他>
 ・資料出所：総務省「統計でみる市区町村のすがた」
 ※本調査における病院とは、患者20人以上入院できる医療施設を指す。

3. 医師数

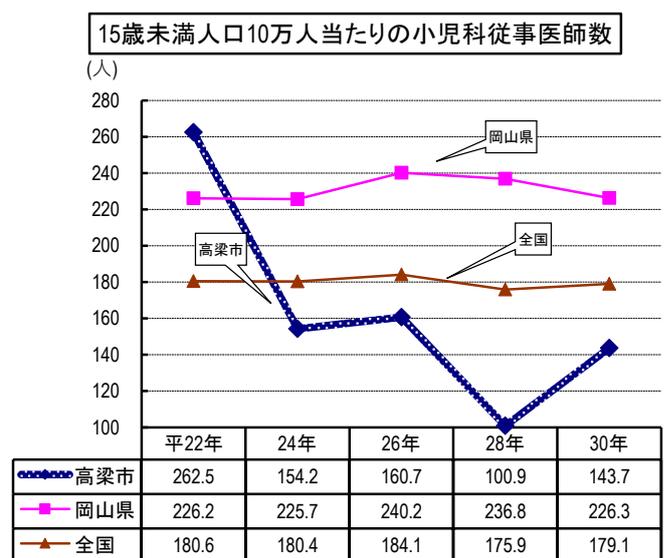
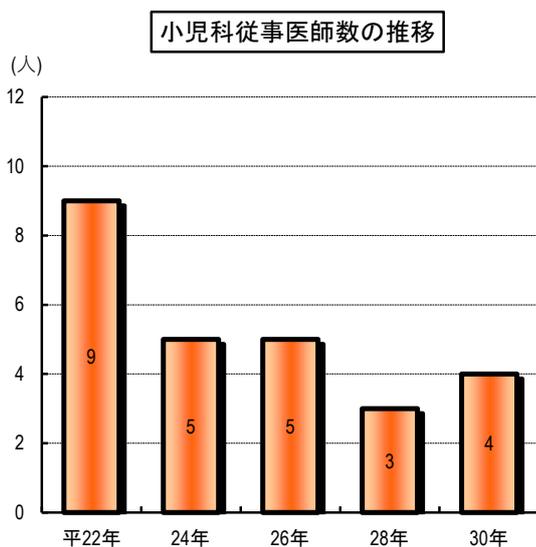
本市の医師数は、ここ数年で減少しており、人口10万人当たりの数は、全国・岡山県平均に比べ、大幅に下回っている。10万人当たりの病院・診療所数は上位であるが、小規模な医療機関が多いため、医師数は平均を下回っている。



<資料出所他>
 ・資料出所：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」
 総務省「人口推計」
 岡山県「岡山県毎月流動人口調査（年報）」
 ・計算式は、医師数÷人口×100,000

4. 小児科従事医師数

本市の小児科従事医師数は、減少傾向にある。ここ数年は5名程度で推移している。また、本市における15歳未満人口10万人当たりの小児科従事医師数は、母数が少ないため年によって大幅に変化している。

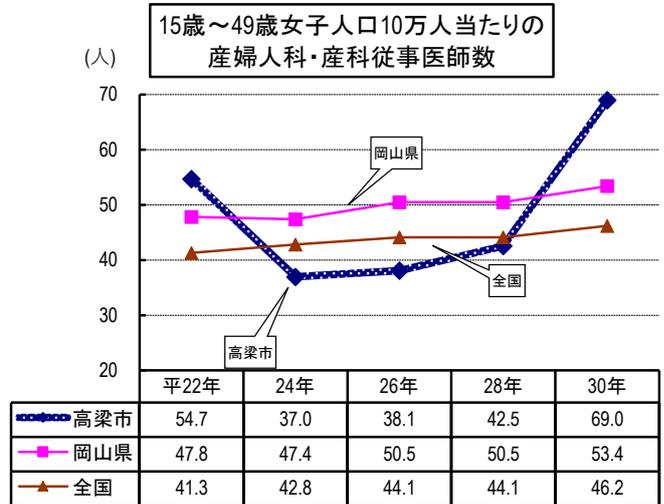
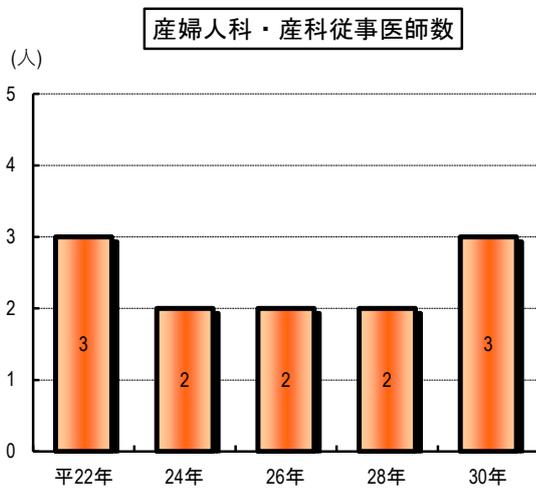


<資料出所他>
 ・資料出所：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」
 総務省「人口推計」
 岡山県「岡山県毎月流動人口調査（年報）」
 ・計算式は、小児科従事医師数÷15歳未満人口×100,000

5. 産婦人科・産科従事医師数

本市の産婦人科・産科従事医師数は、2～3人となっている。

15歳～49歳女子人口10万人当たりの産婦人科・産科従事医師数は、医師数の増減により、全国及び岡山県の数字を平成22年、平成30年は上回っている。



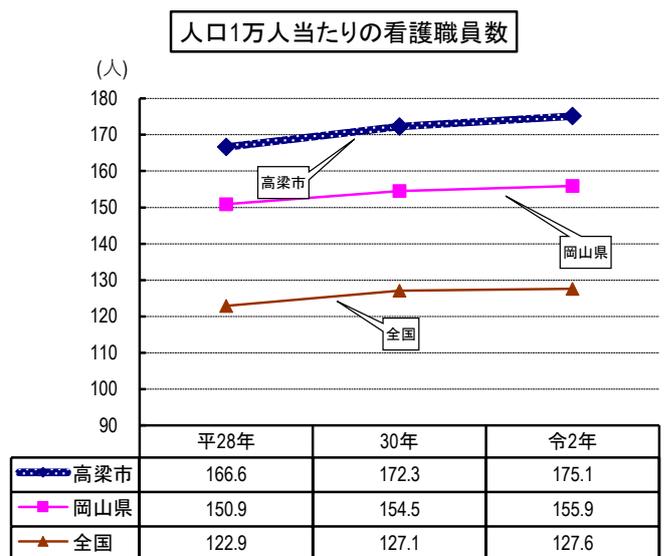
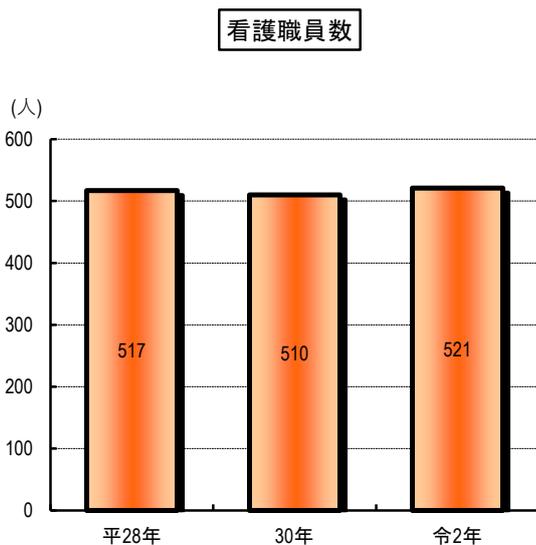
<資料出所他>

- ・資料出所：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」
総務省「人口推計」
岡山県「岡山県毎月流動人口調査（年報）」
- ・計算式は、産婦人科・産科従事医師数÷15歳～49歳女子人口×100,000

6. 看護職員数

本市の看護職員数は、500人程度で推移している。

人口1万人当たりの看護職員数は、全国・岡山県を大幅に上回って推移している。これは、看護職員数の減少が緩やかであるのに対して、本市人口が大幅に減少していることが要因であると考えられる。

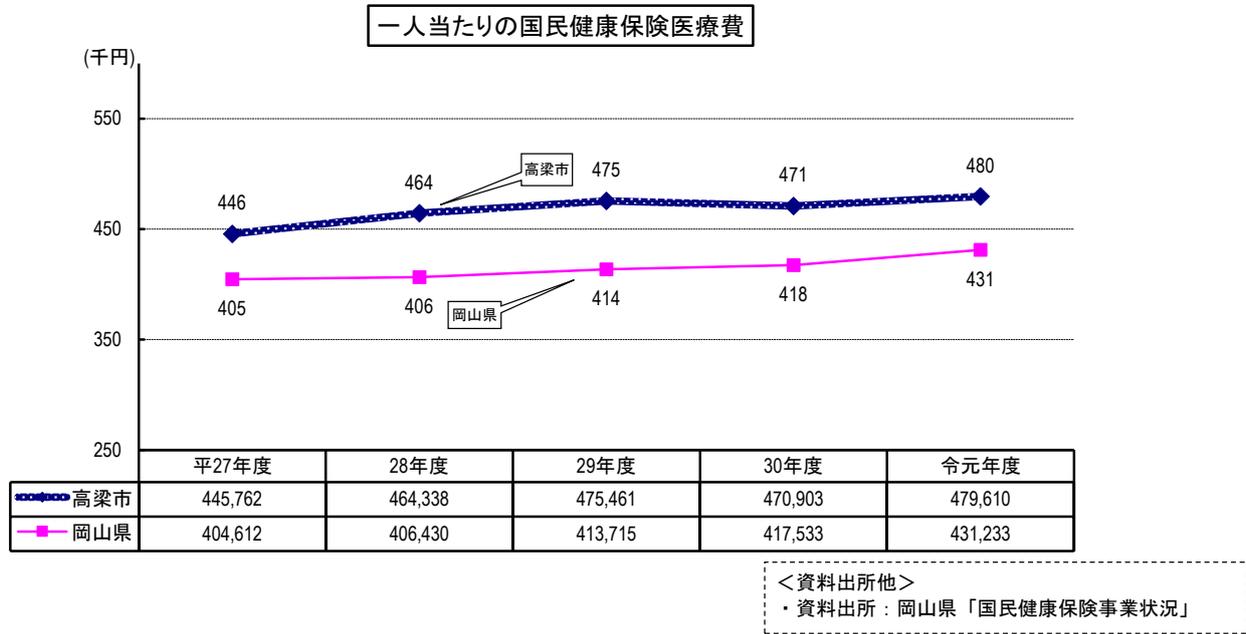


<資料出所他>

- ・資料出所：岡山県「看護職員業務従事者届」
- ・看護職員とは、保健師、助産師、看護師、准看護師のこと
- ・計算式は、看護職員数÷人口×10,000

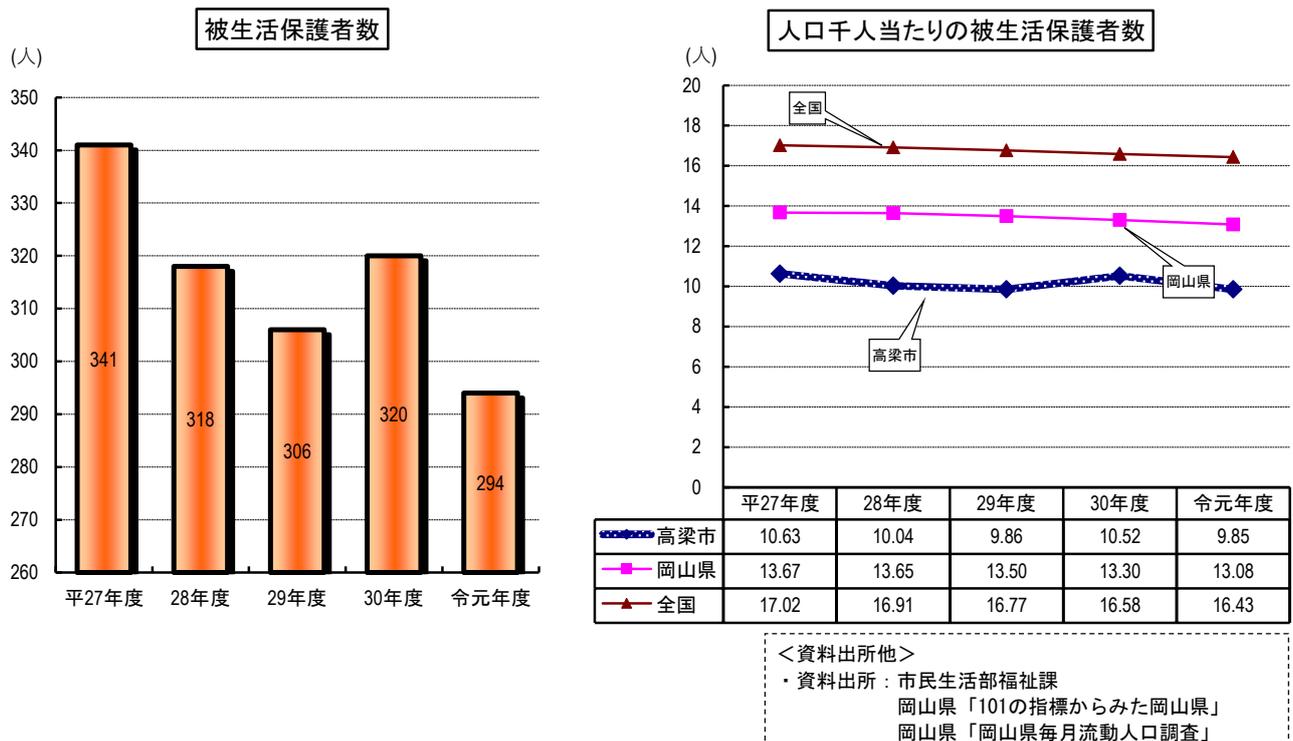
7. 一人当たりの国民健康保険医療費

本市の一人当たりの国民健康保険医療費は、年々、減少あるいは横ばい傾向にあるものの、岡山県全体の平均値に比べて大幅に高額となっている。これは、慢性腎臓病やがんを含む重症化した生活習慣病の医療費が、本市の医療費を引き上げていると考えられる。



8. 人口千人当たりの被生活保護者数

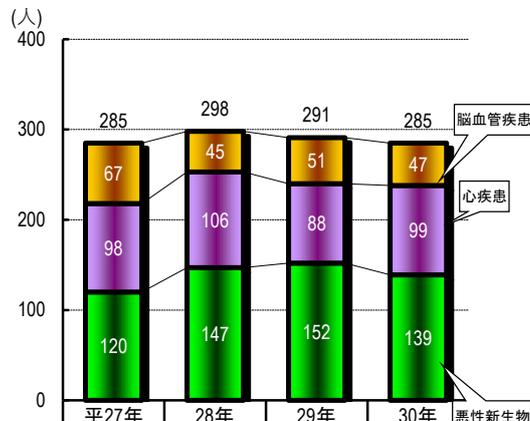
本市の被生活保護者数は、平成30年に大幅に増加したものの、減少傾向にある。人口千人あたりの被生活保護者数は、全国・岡山県と比べて大幅に少なくなっている。



9. 三大主要死因死亡者

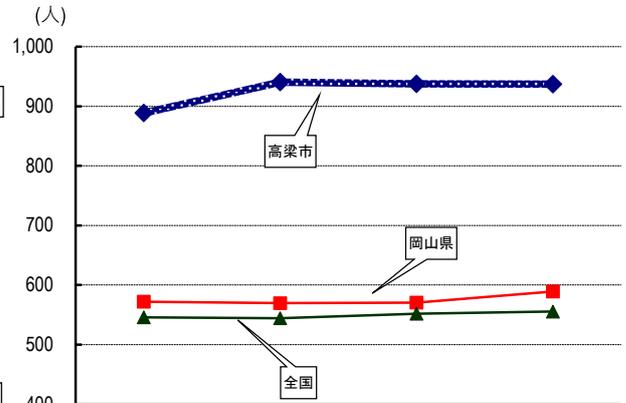
本市の三大主要死因死亡者数は、300人前後で推移している。人口に対する当該要因による死亡率は、全国・岡山県に比べて大幅に高くなっている。これは、本市の高齢化率が高いことに起因すると思われる。

三大主要死因死亡者数(高梁市)



三大死因死亡合計	285	298	291	285
脳血管疾患	67	45	51	47
心疾患	98	106	88	99
悪性新生物(がん)	120	147	152	139

三大主要死因死亡率(人口10万人当たり)



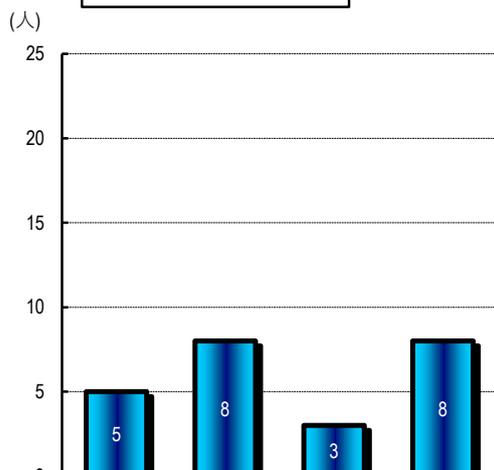
<資料出所他>

- 資料出所：岡山県「衛生統計年報」
岡山県「101の指標からみた岡山県」
岡山県「岡山県毎月流動人口調査」
- 三大主要死因死亡率=三大主要死因死亡者数÷総人口×100,000
(三大主要死因は、悪性新生物、心疾患、脳血管疾患)

10. 自殺死亡者

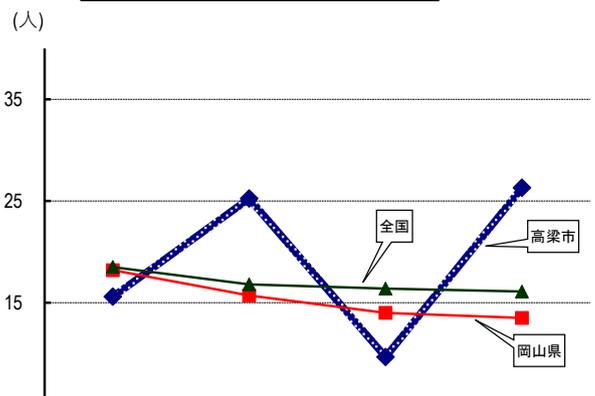
本市の自殺死亡者数は、5人前後である。本市の人口10万人当たりの自殺死亡率は、母数が少ないため年によって大幅に変化している。

自殺死亡者数(高梁市)



自殺死亡者	5	8	3	8
平27年	5	8	3	8

自殺死亡率(人口10万人当たり)



年	高梁市	岡山県	全国
平27年	15.6	18.2	18.5
28年	25.2	15.7	16.8
29年	9.7	14.0	16.4
30年	26.3	13.5	16.1

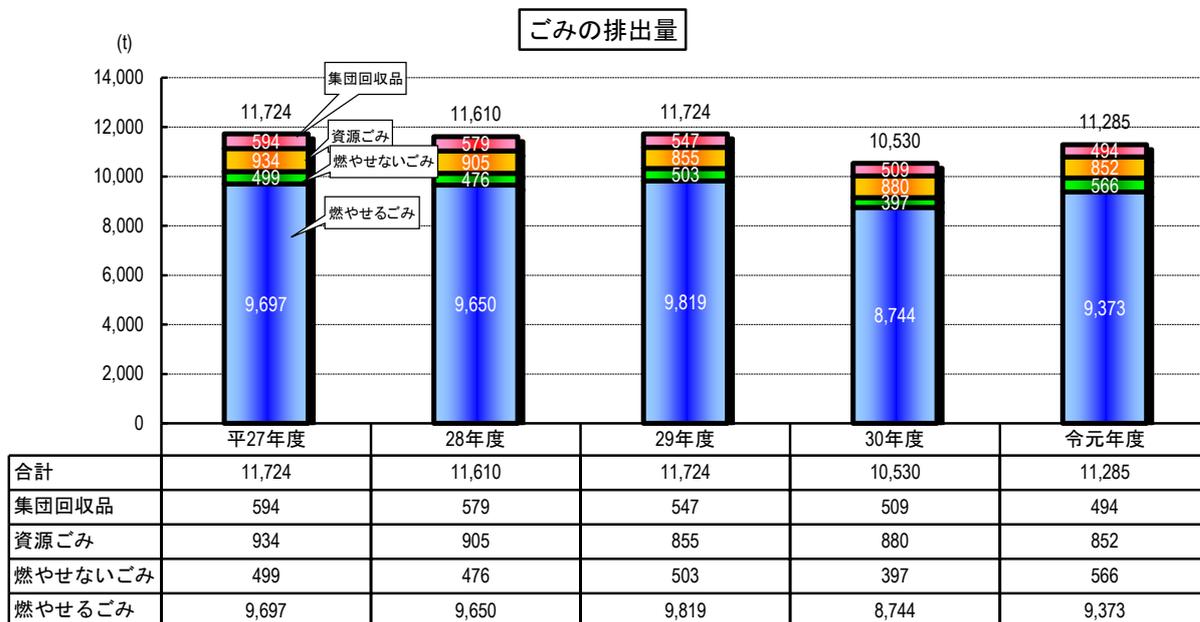
<資料出所他>

- 資料出所：岡山県「衛生統計年報」
岡山県「101の指標からみた岡山県」
岡山県「岡山県毎月流動人口調査」
- 自殺死亡率=自殺死亡者数÷総人口×100,000

F 環境

1. ごみの排出量

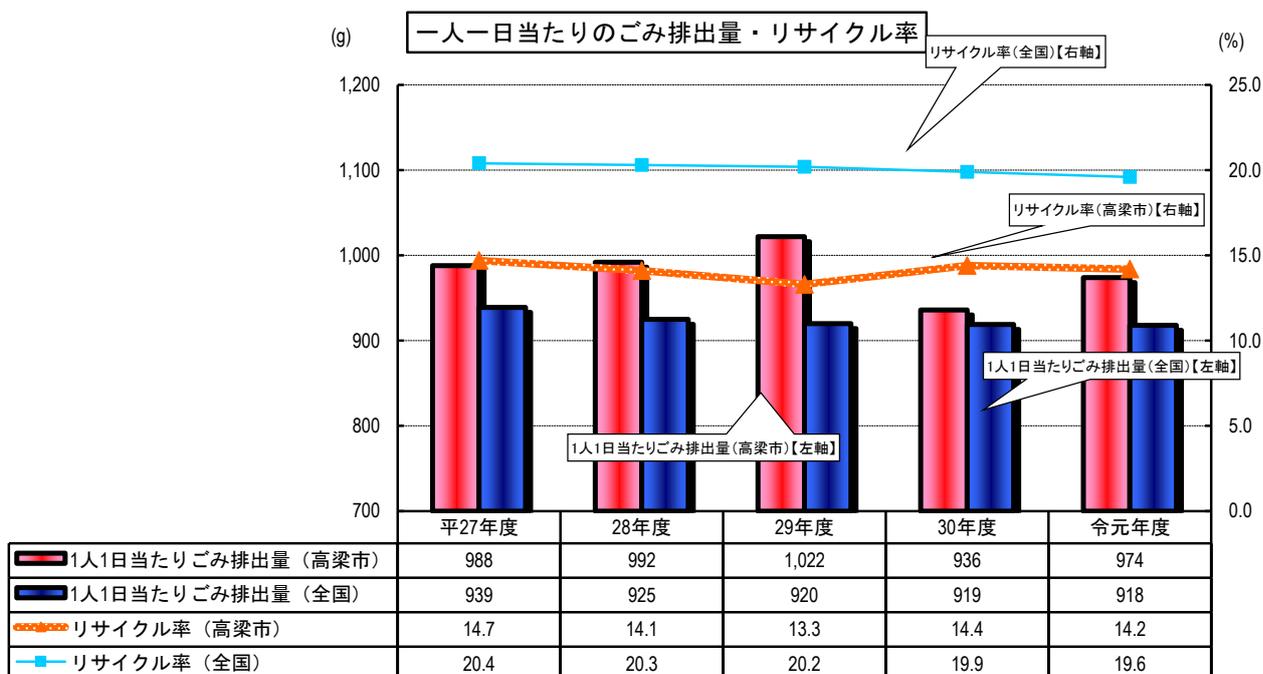
本市のごみ（一般廃棄物）の排出量は、ほぼ横ばいである。



<資料出所他>
・資料出所：高梁市一般廃棄物処理基本計画

2. 一人一日当たりのごみ排出量・リサイクル率

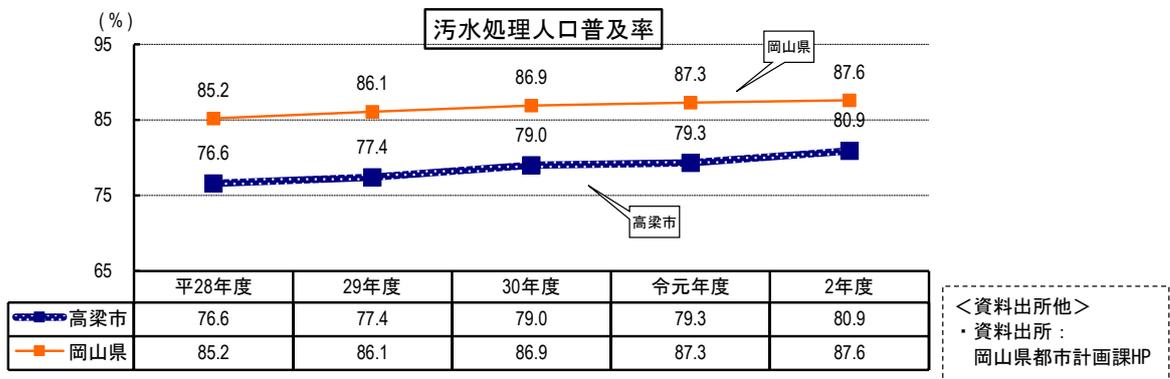
本市の一人一日当たりのごみ排出量は、年々減少しているが、全国に比べると上回っている。リサイクル率も平成30年度に回復したものの、全国に比べて低い割合となっている。



<資料出所他>
・資料出所：高梁市一般廃棄物処理基本計画

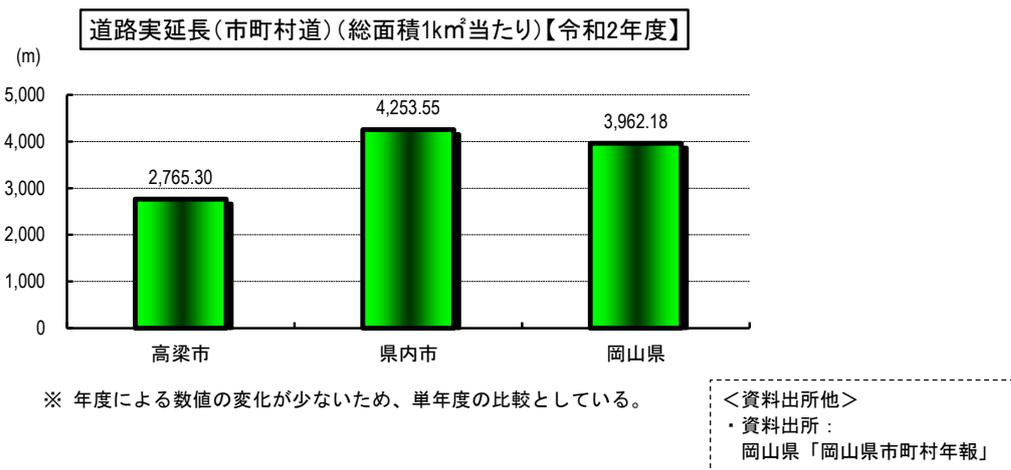
3. 汚水処理人口普及率

本市の汚水処理施設の普及率は、徐々に増加しているものの、岡山県平均と比較すると10ポイント程度の差がある。これは、合併（平成16年）以前、旧町で下水道が未整備であったことに加え、本市の面積が広く山間部が多いことが要因だと考えられる。



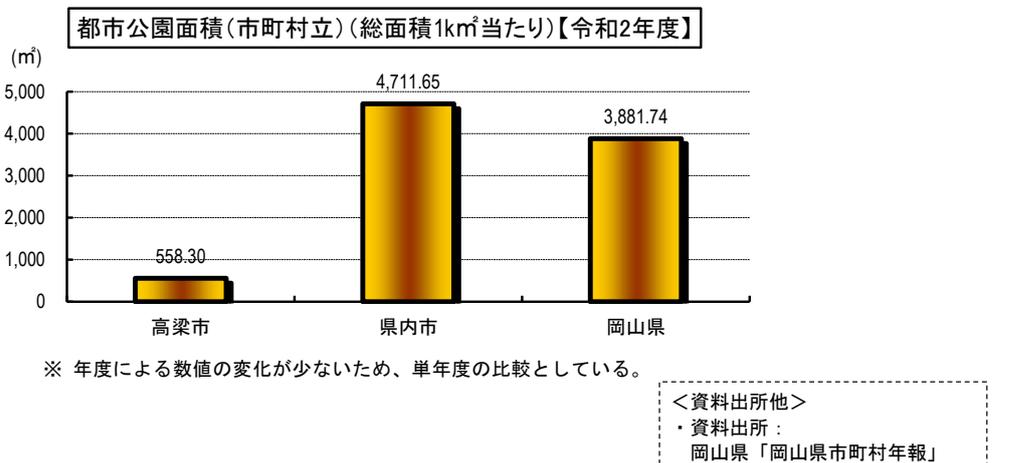
4. 道路実延長(市町村道)(総面積1km²当たり)

本市の総面積1km²当たりの市町村道実延長は、県内市及び県全体に比べて低い水準にある。これは、本市の平地が少ないこと及び、本市の面積が広いことが要因であると考えられる。



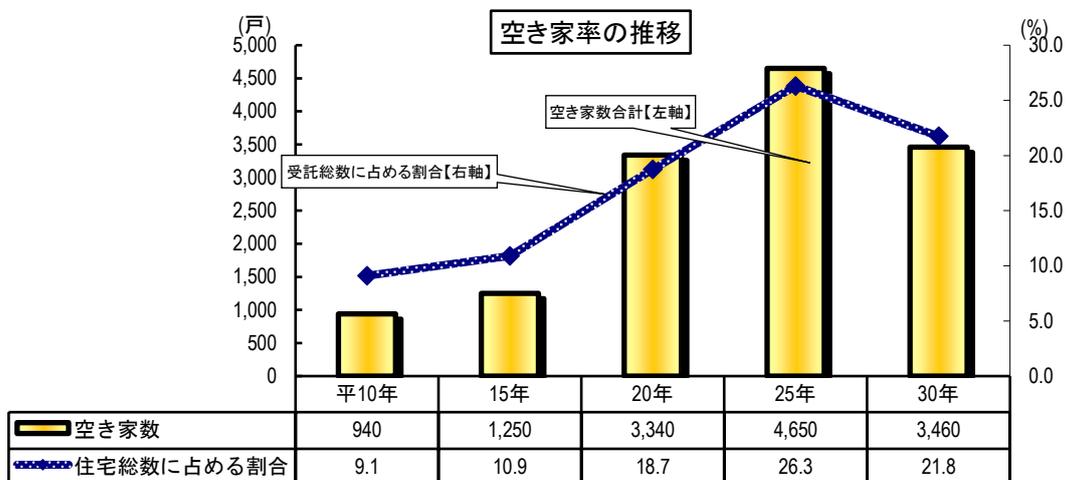
5. 都市公園面積(市町村立)(総面積1km²当たり)

本市の総面積1km²当たりの市町村立都市公園面積は、県内市及び県全体に比べて大幅に低くなっている。これは、市町村道と同様、本市の平地が少ないこと及び、本市の面積が広いことが要因であると考えられる。



6. 空き家率

本市の空き家率の数は、平成25年から平成30年の間に減少したものの、20年前と比較すると増加傾向にある。

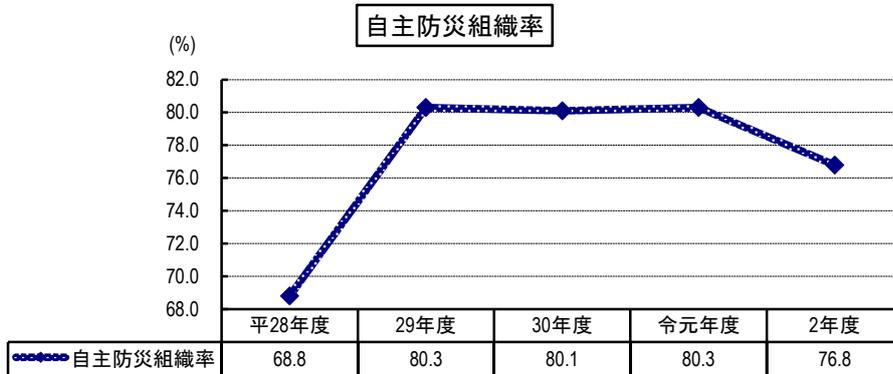


<資料出所他>
 ・資料出所：総務省
 「住宅・土地統計調査」

G 防災・安全

1. 自主防災組織率

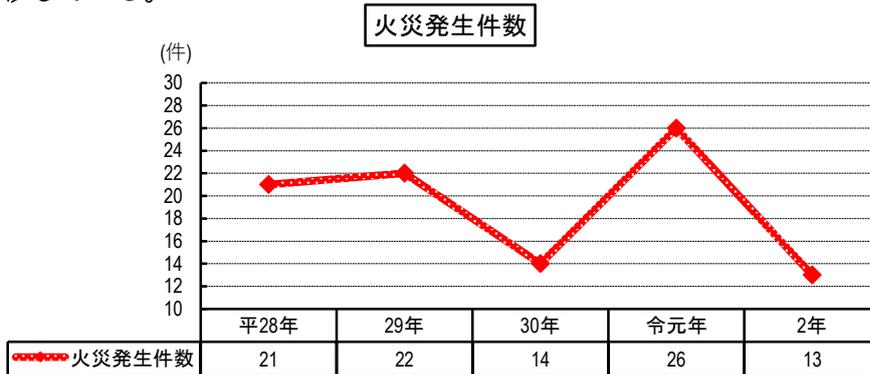
市内の自主防災組織率は、平成28年度は68.8%であったが、概ね80%前後で推移している。



<資料出所他>
 ・資料出所：岡山県危機管理課
 ・自主防災組織率=組織内世帯数
 ÷全世帯数×100

2. 火災発生件数

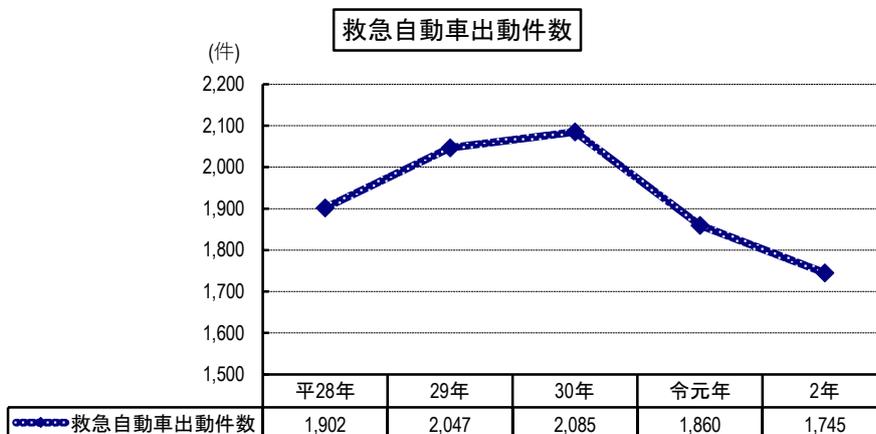
市内の火災発生件数は、平成30年度、令和2年度は大幅に減少したものの、おおむね20件前後で推移している。



<資料出所他>
 ・資料出所：消防本部警防課

3. 救急自動車出動件数

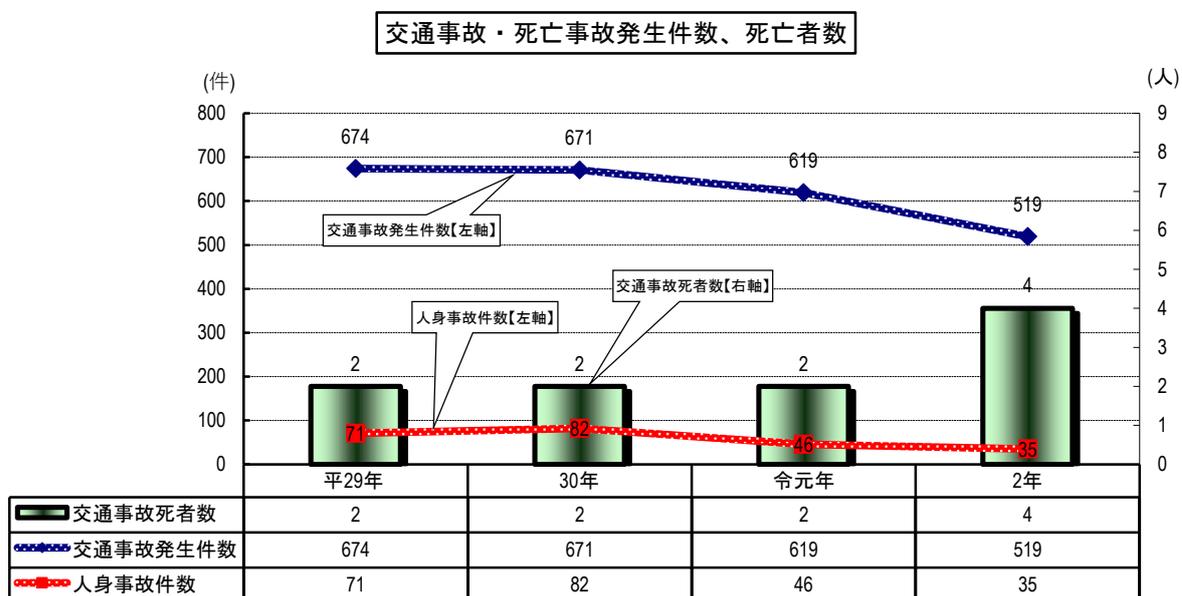
救急自動車出動件数は、1,700件～2,100件前後であり、近年は減少傾向にある。



<資料出所他>
 ・資料出所：消防本部警防課

4. 交通事故・人身事故発生件数、死亡者数

市内の交通事故発生件数は、減少傾向にある。そのうち、人身事故についても平成30年に増加したものの、事故全体の約1割程度で推移している。交通事故死者数については、毎年数名程度である。



<資料出所他>
 ・資料出所：
 岡山県警察本部交通企画課

H 財政状況

1. 当初予算(一般会計)

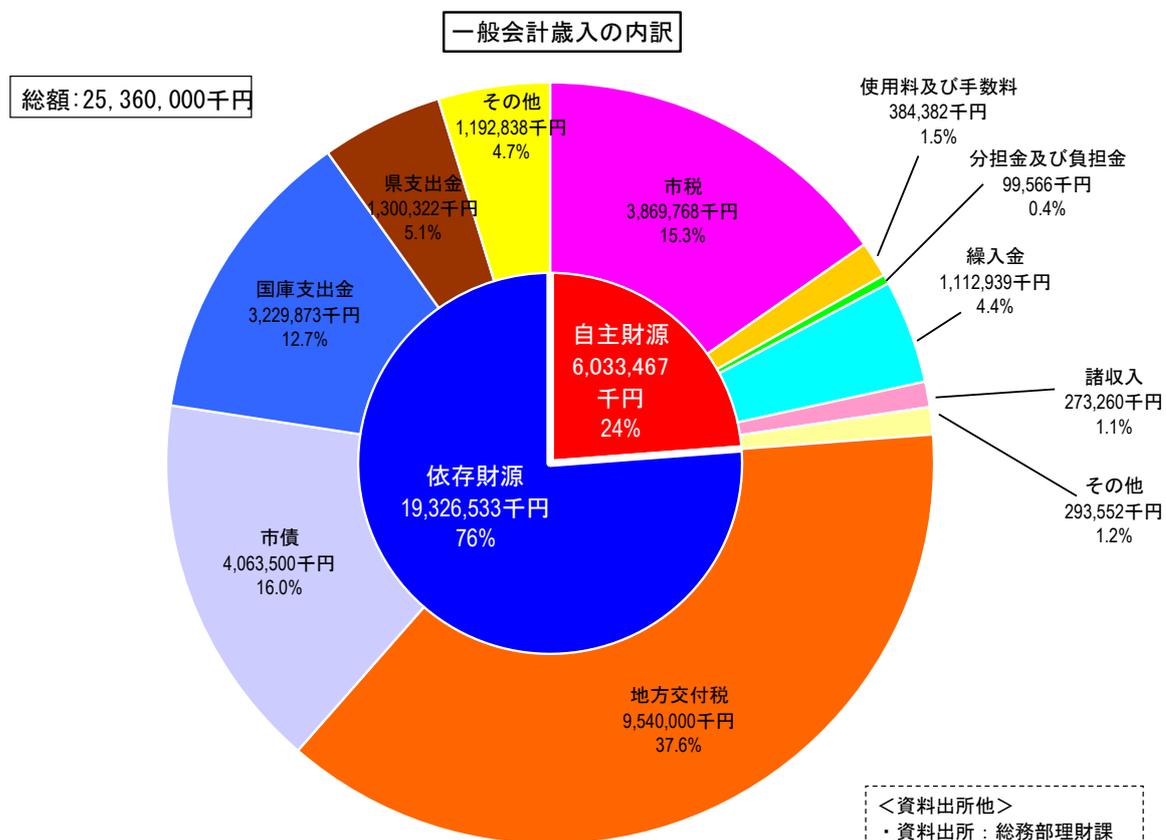
平成16年の合併以降、本市の当初予算(一般会計)は、240億円前後で推移している。



<資料出所他>
・資料出所：総務部理財課

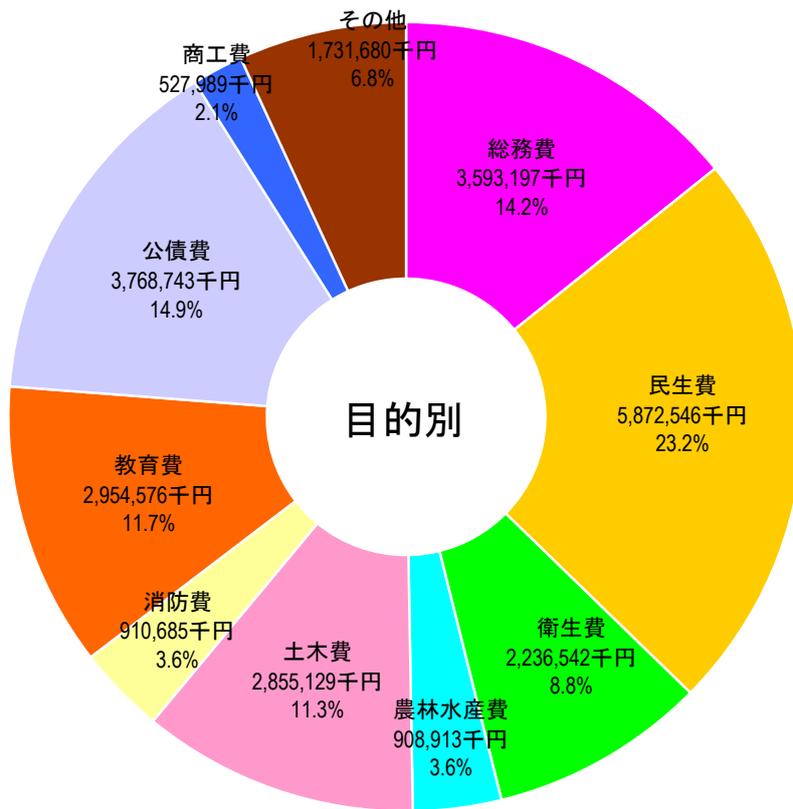
2. 令和3年度予算の内訳

令和3年度予算の内訳をみると、自主財源が24%、依存財源が76%となっている。

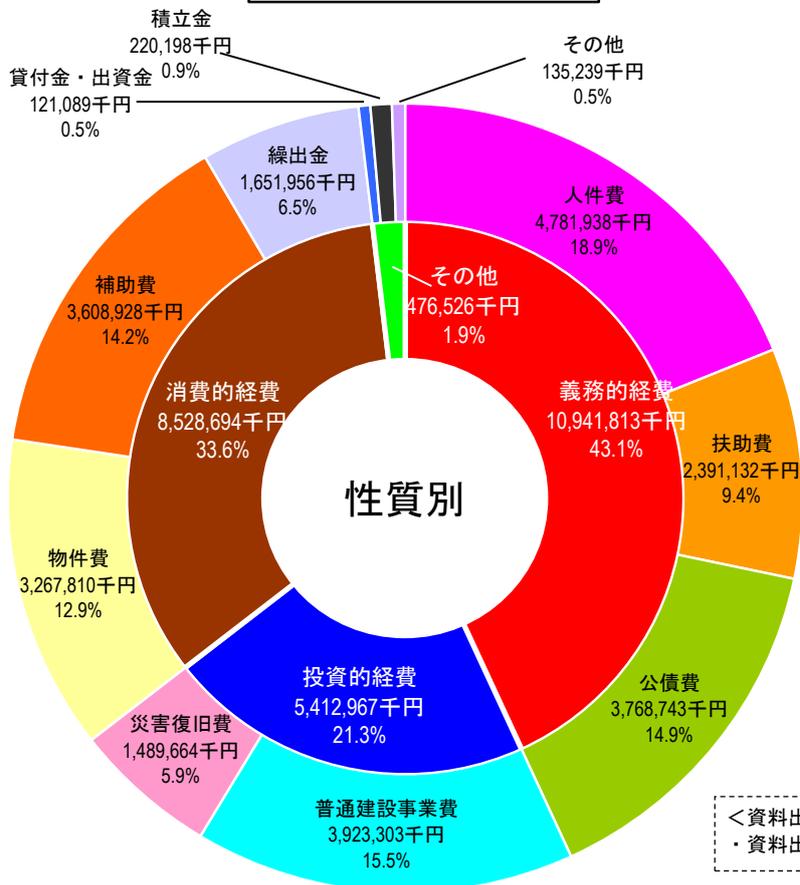


<資料出所他>
・資料出所：総務部理財課

一般会計歳出の内訳（目的別）



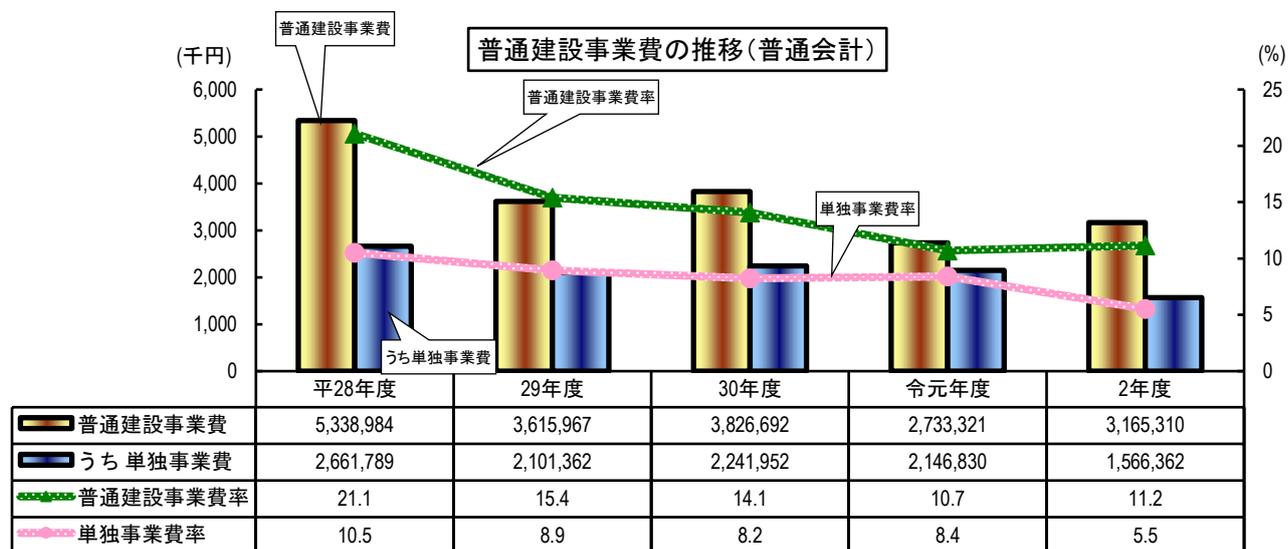
一般会計歳出の内訳（性質別）



<資料出所他>
・資料出所：総務部理財課

3. 普通建設事業費

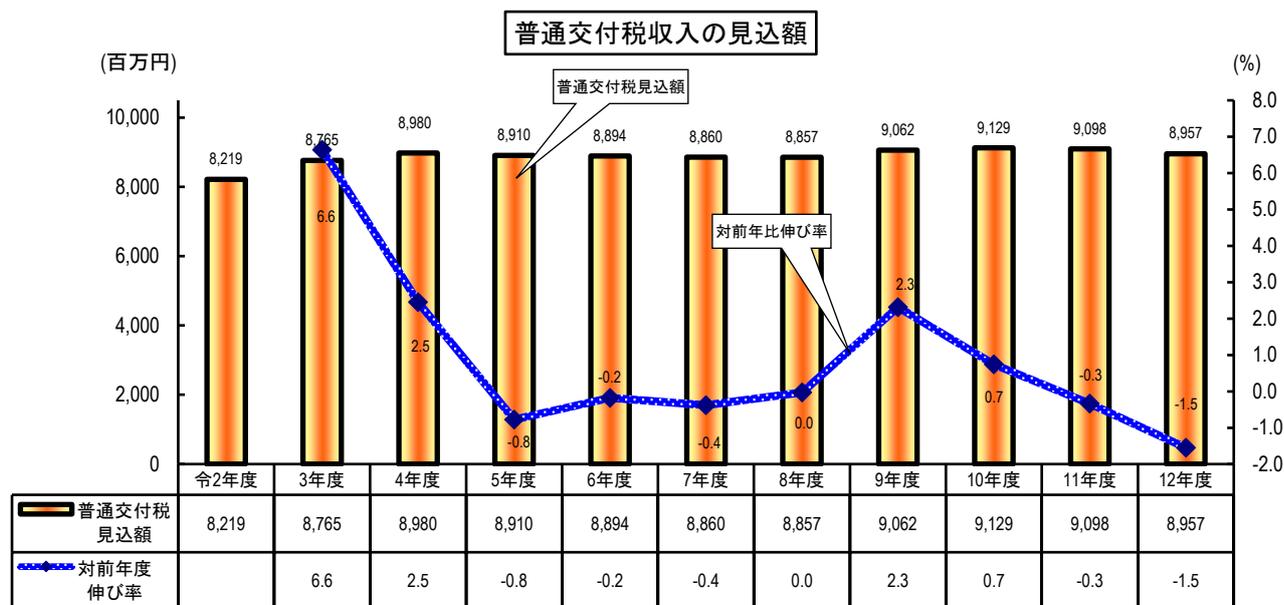
市の普通建設事業費はおよそ30億円前後、単独事業費は20億円程度で推移しているが、平成28年度には、高梁市図書館の開館等の理由により大幅に普通建設事業費は増加した。



<資料出所他>
 ・資料出所：総務部理財課
 ・普通建設事業費：公用施設の新増設等の建設事業費に要する経費
 ・単独事業費：地方公共団体が国の補助を受けずに実施する事業経費

4. 普通交付税収入の見込額

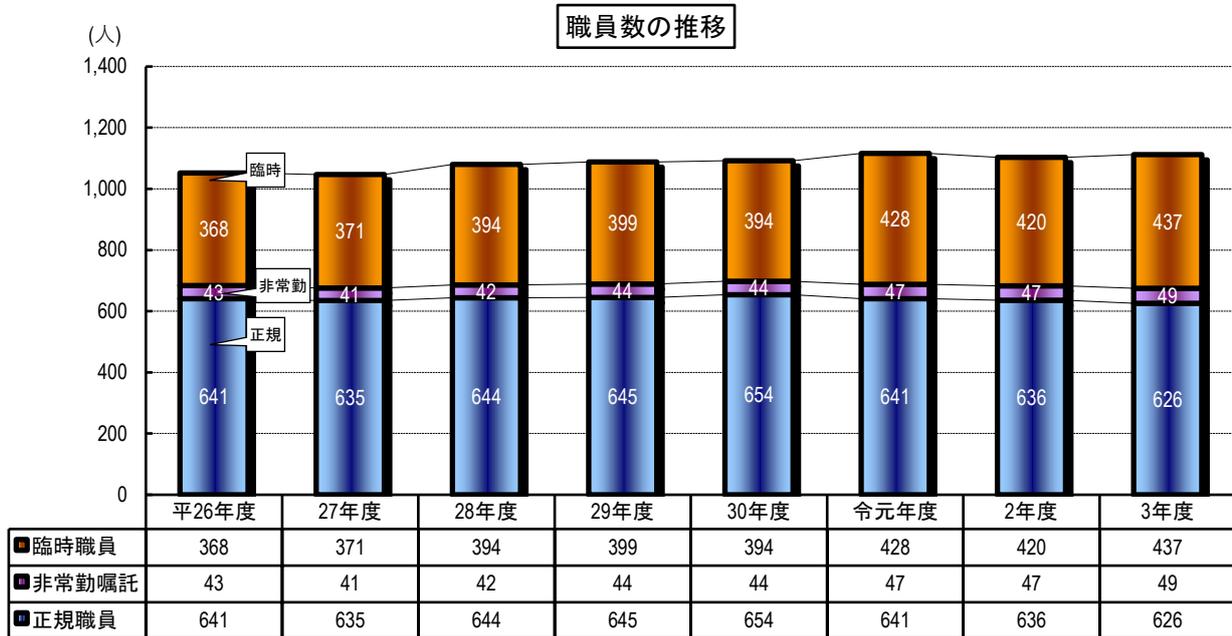
普通交付税収入は、90億円程度で推移している。



<資料出所他>
 ・資料出所：総務部理財課

5. 職員数

市職員の数、正規職員数は微減しているものの、非常勤嘱託職員数及び臨時職員数（令和2年度からは会計年度職員）が増加傾向にある。そのため、令和3年4月1日現在、平成26年度と比較し、職員全体の数は微増している。



<資料出所他>
 ・資料出所：総務部総務課

I その他

1. 高梁市観光情報

名所・旧跡

備中松山城，頼久寺庭園，保月の六面石幢と石塔婆・板碑，吹屋ふるさと村，旧吹屋小学校
磐窟溪，笠神の文字岩，弥高山，夫婦岩

祭り・イベント等

春（3～5月）

弥高つつじ祭り，町家通りの雛まつり，国橋まつり大神楽【備中神楽】，高梁音楽祭

夏（6～8月）

備中名物成羽愛宕大花火，有漢町納涼ふるさと祭，マンガ絵ぶたまつり，

備中たかはし松山踊り，ホテルまつり

秋（9～11月）

吹屋ベンガラ灯り，ヒルクライムチャレンジシリーズ高梁吹屋ふるさと村大会，渡り拍子

備中ふるさと祭り，かわかみふるさと物産まつり，なりわ祭り，風ぐるまフェスタ

冬（12～2月）

高梁稻荷神社霜月大祭，愛らぶ高梁ふれあいマラソン，体力つくりなりわ神楽マラソン

全国一番のもの

・備中松山城(日本一高い山城)

・連続猛暑日(24日連続:R2年記録更新)

県下一番のもの

・有効求人倍率(1.75倍:R2年時点)

・在留外国人割合(3.3%:R元年度末時点)



令和3年度
統計データからみる高梁市の姿

令和4年3月 発行

編集・発行 高梁市秘書企画課企画統計係

〒716-8501

岡山県高梁市松原通2043

TEL: 0866-21-0208

FAX: 0866-21-0261

高梁市HP: <https://www.city.takahashi.lg.jp/>